

令和3年度
行動計画と
その取組み結果報告書

＝ 組 織 別 ＝

令和5年2月
八戸工業高等専門学校

令和3年度 行 動 計 画

委員会等	担当者	行 動 計 画	頁
運営委員会	企画担当 副校長	1. 新型コロナウイルス感染症への対応（継続） 2. オンライン会議の実施（継続）	5
入学者選抜委員会	教務主事	1. 学校 PR の推進 2. 入学者選抜方法の検討（継続）	7
教務委員会	教務主事	1. 教務関係規則等の整備（継続） 2. モデルコアカリキュラムへの対応（継続） 3. 教育の質保証への対応 4. タイからの留学生への対応（継続） 5. 教務システムの更新 FD の計画 ① 実験・実習スキルシート FD	10
厚生補導委員会	学生主事	1. 学生指導・支援の充実（継続） 2. 学生主体の取り組みの推進と学生会活動の活性化支援 3. 学生の事件・事故防止のための組織的な取り組みの推進 4. 健康管理と保健衛生の醸成	14
寮務委員会	寮務主事	1. 寮生の健康管理徹底と生活意識向上の支援（継続） 2. 寮生の自主的活動の支援（継続） 3. 施設・住環境の改善（継続） 4. 運営・管理業務の見直し（継続）	18
専攻科委員会	専攻科長	1. 新型コロナウイルス感染症に対する対応（継続） 2. 多様化する専攻科の制度整備（継続） 3. 留学（学外研修、ED等）の支援体制の整備（継続） 4. 入学者の確保および大学院進学への奨励と対策（継続）	22
施設整備計画委員会	教務主事	1. 施設・設備の維持・整備と改善（継続）	25
紀要編集委員会	委員長	1. 紀要投稿数の増募推進（継続）	26
環境マネジメント委員会	企画担当 副校長	1. 環境負荷の少ないキャンパス作り（継続）	27
国際交流センター	センター長	1. グローバルエンジニア育成に向けた国際交流の推進（継続） 2. 低学年生のタイ人留学生への対応および学内外でのホームステイの基盤づくり（継続） 3. 教職員のグローバル教育（継続） 4. 情報発信の推進（継続）	28
知的財産委員会	テク/センター長	1. 知的財産戦略の普及啓発（継続）	32
広報委員会	委員長	1. 八戸高専ホームページの内容の更新と充実（継続） 2. キャンパスガイド等の内容充実（継続） 3. 本校公式 SNS 運用の検討	34
総合情報センター委員会	センター長	1. Microsoft365 への対応（継続） 2. 情報セキュリティ対策の充実（継続）	35

図書館委員会	館長	1. 交流室の積極的な活用について(継続) 2. 読書習慣を身につけさせるための各種行事の充実(継続) 3. 蔵書点検の実施(継続) 4. 資格試験コーナーの充実(継続)	36
地域テクノセンター委員会	センター長	1. 産学官金民連携の推進(継続) 2. 共同研究の推進(継続) 3. 地域への貢献(継続)	37
地域文化研究センター委員会	センター長	1. 地域における教養教育活動 2. 『地域文化研究』発行見直しの検討 3. ホームページの整備等、情報発信の推進 4. 総合科学教育科教員による研究紹介	42
廃水処理施設管理運営委員会	施設長	1. 廃水処理についての認識の強化 2. 廃水処理施設設備の更新	43
相談室運営委員会	室長	1. 支援体制の整備の推進(障害者相談室との協力・連携)(継続・修正) 2. 要支援学生の把握と支援(継続) 3. COVID-19 禍での支援対応(継続) 4. 学生支援の連携体制について(新規)	44
危機管理関係	企画担当 副校長	1. 新型コロナウイルス感染症への対応(継続) 2. 緊急時の情報伝達および安否確認方法の改善(継続) 3. 学内におけるリスクの調査(継続)	46
男女共同参画委員会	委員長	1. 女性教職員および女子学生の研究・就業・就学に対する支援 2. ダイバーシティ推進に関する広報の継続 FD実施予定	53
キャリア教育・支援センター	センター長	1. 全学的なキャリア構築のための支援プログラムの推進 2. 全学的な進学希望者への効果的な支援	60
教育プログラム委員会	委員長	1. 自己点検・評価の実施と改善	63
教育プログラム計画委員会	委員長	1. 外部評価への対応(継続)	64
教育プログラム点検・評価委員会	委員長	1. 授業点検の実施 2. エビデンス点検と抜き取り調査の実施 3. シラバス 及び 自己チェックリストの点検の実施 4. 卒業生・企業等のアンケート	65
総合科学教育科	教育科長	1. 教育内容の充実 2. 学生指導の連携 3. 大学編入学、大学院入学希望学生の支援 4. 学内共同研究体制の推進	66
機械・医工学コース	コース長	1. キャリア支援(継続) 2. 教員の研究活動促進(継続) 3. 増募対策(継続)	67
電気情報工学コース	コース長	1. 基礎学力の向上(継続) 2. 進路支援(継続) 3. 増募対策(継続)	68
マテリアル・バイオ工学コース	コース長	1. 進路支援の充実(継続) 2. 専門分野における地域貢献(継続) 3. 増募対策(継続)	70

環境都市・建築デザインコース	コース長	1. コース志望者の増募対策 2. 環境都市・建築デザインコースの教育環境および資格関係の整備・見直し(継続)	71
教育研究支援センター	センター長	1. 研究・教育活動に関する技術支援 (継続) 2. 東北地区高専および他機関との連携の推進 (継続)	72
空間構造デザイン系	系長	1. 選択科目「空間デザイン」の授業内容検討 (継続)	73
ロボティクス系	系長	1. 系担当の授業内容等の充実 (継続)	74
機能創成材料系	系長	1. 機能創成材料系における授業内容等の検討	75
エネルギー系	系長	1. 新カリキュラムにおける系の授業内容の検討 (継続)	76
ナノテクノロジー系	系長	1. ナノテク系開講科目授業内容の充実 (継続)	77
環境・バイオテクノロジー系	系長	1. 系担当の授業内容についての検討 (継続)	78
数理情報系	系長	1. 数理情報の授業内容の検討 (文言修正のうえ継続)	79
産業教育系	系長	1. キャリアに対する意識づけを目的とした授業の計画と実行 2. 教養教育の充実と基礎的教養の涵養を目的とした読書のためのブックリストの作成	80

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	運営委員会
行動計画	1. 新型コロナウイルス感染症への対応（継続） 2. オンライン会議の実施（継続）

1. 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症の流行が始まって2年目となる令和3年度は、5月の大型連休の第4波、お盆頃からの第5波、年明けからのオミクロン株による第6波と、3度の全国的な感染拡大に見舞われた。これを受けて東北地区高専体育大会が中止となったほか、全国高専体育大会も種目ごとに大幅延期などの措置が取られるなどの影響が生じた。本校でも地域の感染拡大の状況を見極めながら、県高校総体への参加見合わせや一斉遠隔授業の実施、冬学期到達度試験や自主探究発表会のオンライン開催などの対応を行った。

新型コロナウイルス感染症への対応については、日々変化する状況に応じて短期間のうちに対応案を決定する必要があり、基本的に毎月1回開催の運営委員会での審議を経ることが難しい場合もあるため、内容に応じて拡大メンバーを加えた企画室会議で審議した結果を運営委員会に報告し、承諾を得ることも多くなった。新型コロナウイルス感染症に関連する対応について、令和3年度の運営委員会での審議・報告された主な項目は以下のとおりである。

- ・R3年度新入生への対応方法と周知について
- ・就職・進学のための県外移動について
- ・R3年度版 学校生活における「新しい生活様式」ハンドブックについて
- ・新型コロナウイルス感染症に関する行動指針【教職員版】について
- ・課外活動指導員への新型コロナウイルス感染症対策（協力依頼）について
- ・県高校総体参加見合わせについて
- ・クラス単位、部活単位での自宅待機について
- ・学生のオリンピック観戦にかかる授業および試験等の取扱いについて
- ・八戸市内高等教育機関4校連携による新型コロナワクチンの職域接種について
- ・新型コロナワクチン接種を2回終えた場合の行動制限緩和（教職員用）について
- ・夏季休業中の学生の登校停止について
- ・オンライン方式オープンキャンパス実施要項について
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための自宅における特別研究等の実施に関する要項について
- ・全国高専体育大会・東北地区予選会参加者への対応について
- ・学生引率に係る手引き〔新型コロナ対策関係〕について
- ・高専祭の開催方法について
- ・入学者選抜試験の時期に向けた教職員の在宅勤務について
- ・1月29日以降のコロナ感染防止対策（一斉遠隔授業）について
- ・令和3年度冬学期到達度試験（オンライン）の実施について
- ・令和3年度冬学期到達度試験の答案返却および解説（オンライン）について
- ・令和3年度学年修了式（オンライン）について
- ・自主探究発表会（オンライン）について

- ・部活動の禁止・大会への参加取りやめ（1/18 から当面の間）について
- ・企業内容説明会（オンライン）について
- ・卒業証書授与式の実施方法について

2. オンライン会議の実施

本校における教職員の感染防止対策の一環として、長時間に及ぶことの多い運営委員会における密を回避するため、令和3年度も引き続き運営委員会をオンライン会議により開催した。Teams の会議システムを利用して各委員が自室等から出席し、質疑等の審議を行った。オンライン開催も2年目に入り委員が操作に慣れてきたこともあり、大きな問題もなくオンライン開催を継続することができた。なお、成績会議が併催される場合等を除き、教員会議も同様の形式でオンライン開催した。

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	入学者選抜委員会
行動計画	1. 学校 PR の推進 2. 入学者選抜方法の検討（継続）

1. 学校 PR の推進

工学系に興味も持つ優秀な学生確保のために以下の学校 PR 活動を実施した。

（1）学校 PR 活動

①入学者選抜懇談会

入学者選抜懇談会は昨年度と同様の 4 地区で開催し、中学校の進路指導担当教員への説明を行った。各地区の参加校数は、青森地区 14 校（昨年度 19 校、以下同様）、弘前地区 19 校（18 校）、むつ地区 4 校（6 校）、八戸地区 48 校（58 校）であり、合計では昨年度より 16 校減の 85 校となった。

②中学校訪問

効率的に中学校の教員に対して PR ができるように、入学者選抜懇談会に参加した中学校は訪問対象外としたうえで、受験実績が一定数以上の中学校、受験実績は少ないが 3 学年の生徒数が 30 名以上の規模の中学校および直近に入学実績のある中学校を中心に 48 校を訪問した。

③一日体験入学

開催時期を 7 月の第 3 土曜日、日曜日に設定して、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として開催方法を見直し、日程を一日から半日に短縮したほか、密を避けるなど感染防止対策をとったうえで計画した。しかし、新規感染者数の増加を受けて日程を 9 月 4 日、5 日に延期することとしたが、感染状況の収束が見通せず対面形式での一日体験入学の開催を断念、10 月 3 日（日）オンライン形式で一日体験入学を実施した。実施にあたっては、青森県全域、岩手県北の中学校に対してオンライン開催を周知し、参加者数（アクセス数）は延べ 215 名となり、R2 年度 904 名、R1 年度 799 名、H30 年度 665 名に対して大幅に減少した。なお、当日配信された動画は、本校ホームページのトップページにバナーを設け、外部から閲覧しやすいようにした。

④中学校進路指導説明会（高校説明会）

各中学校で、3 年生（または 2 年生）やその保護者などを対象として高校等の学校紹介を行う進路指導説明会（高校説明会）に参加し、直接、中学生やその保護者に PR した。同説明会への講師派遣希望アンケートを、津軽地域を加え、三八地区、上北地区、下北地区、東青地区、中南地区および岩手県北の中学校に送付したところ、訪問学校数は 22 校（対象 1419 名）となり、結果としては前年度（25 校、1482 名）を下回る結果となった。新型コロナウイルスの影響で説明会が開催できないケースもあったことなどが要因であると考えられる。来年度は、入学者選抜懇談会や中学校訪問でも説明会への参加を依頼することで、中学生や保護者に直接説明できる機会を得られるよう取り組みを継続していくことが必要である。

⑤県立高校入学者選抜要項説明会

県内 6 地区で開催される県立高校の入試要項説明会については、全ての地区へ説明者を派遣する予定であったが昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のため本校の参加は見送られ、資料の送付のみとなった。

⑥青森市立中学校長会

青森市の中学校長会において、本校の概要を説明させていただいているが、昨年同様新型コロナウイルス感染拡大防止から本校の参加は見送られ、資料の送付のみとなった。

⑦国公立高専合同説明会

高専機構主催で実施された KOSEN FES2021 にオンラインにて参加した。6月6日の東京会場、7月11日の大阪会場にてそれぞれ本校の紹介をオンラインで行った。東京会場では、会場の PC を通じて来場者からの質問に対応した。

⑧卒業生への募集案内送付

本校卒業生に対して、子供の八戸高専入学を呼びかける取り組みを一般財団法人「はちのへ科学技術研究会」と連携して実施した。最寄り地受験制度が整備されることも含め、継続して PR を実施していきたい。

(2) 令和 4 年度志願者倍率

令和 4 年度本科の入学志願倍率は下表の通りであった。推薦と学力を合わせた合計では 1.7 倍であり、昨年度より減少した。昨年度との比較では推薦の志願者が 13 名減となった。高校との併願においては昨年同様、成績上位の志願者に八戸高校を第 1 志望とする者が多く、県立高校の合格発表後に入学を辞退している。令和 3 年度は一日体験入学が新型コロナの影響でオンライン開催となり、参加者も例年に比べて減少したため八戸高専の魅力を中学生に伝えることができなかつた。15 歳人口が急減していくなか、本校を第 1 希望とする実質倍率、特に推薦選抜の志願者を増やすため、入試制度の改革を含めて、さらなる取り組みが必要である。

コース名	R4 年度			R3 年度			R2 年度		
	推薦	学力	合計	推薦	学力	合計	推薦	学力	合計
機械システム	1.1	2.0	1.5	1.2	1.7	1.4	1.4	1.8	1.4
電気情報	1.9	3.1	2.1	2.3	3.7	2.4	1.6	3.3	2.1
マテリアル	1.5	2.3	1.7	2.1	3.3	2.1	1.4	3.5	2.3
都市建築	1.9	2.3	1.6	1.4	2.1	1.6	1.5	2.6	1.8
全体	1.6	2.4	1.7	1.7	2.7	1.9	1.5	2.8	1.9

2.入学者選抜方法の検討（継続）

（1） 本科入試

①最寄り地受験制度の実施

学力選抜試験において出願する高専に関係なく、全国にある 51 高専が設置している会場のどこでも受験が可能な「最寄り地受験制度」を導入した。今年度は、函館高専希望者 1 名が八戸会場で、仙台高専希望者 1 名が青森会場で受験、本校希望者 1 名が一関高専盛岡会場で受験した。今後この制度を活用しながら増募に結び付けていきたい。

② 東北地区高専複数校受験制度

東北地区の複数高専制度の導入について協議が行われ、八戸、秋田、仙台高専の 3 高専で R5 年度入試から実施することが確認された。実施方法については今後詳細を検討することとした。

（2） 専攻科入試・編入学入試

①社会人選抜（編入学・専攻科）の実施時期の変更

昨年度までは、社会人向けの編入学および専攻科入試ともに 3 月に実施していたが、合否が決定してから入学までの準備期間が非常に短く、志願者および志願者の所属企業に少なからぬ影響を与えたと考え、今年度は 10 月 1 日に実施した。

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	教務委員会
行動計画	1. 教務関係規則等の整備（継続） 2. モデルコアカリキュラムへの対応（継続） 3. 教育の質保証への対応 4. タイからの留学生への対応（継続） 5. 教務システムの更新 FD の計画 ① 実験・実習スキルシート FD ② 学校の特色部分（MCC 外）の明確化

1. 教務関係規則等の整備（継続）

（1）学則の一部改正

- ① 再履修における教育課程表の適用年度について、原則として当該者の入学年度の教育課程を適用するものとした。（第15条関係）
- ② 第18条に転入学に関する記述を追加した。
- ③ 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）および情報リテラシーのMCC 対応、卒業による教育課程表の廃止のため第13条別表1の改定を行った。

（2）学生表彰規則の一部改正

- ① CBT 導入による学習到達度試験優秀賞の廃止 取扱要領との整合をとるため文言を追加するため、学生表彰規則第3条を改正した。
- ② 現行カリキュラムのコース名、式典名との整合をとり所要の改正を行うため一部改正した。

（3）データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）履修規則の制定

- ① 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）の実施に関し、必要な事項を定めた履修規則を制定した。

（4）申し合わせの改正

- ① 皆勤賞・精勤賞・三ヶ年皆勤賞に関する申し合わせを制定した。
- ② 学業成績評価及び学年の課程修了並びに卒業認定に関する規則第14条に関する留年時の教育課程の適用に関する申し合わせを改正した。
- ③ 授業時間割編成に関する申し合わせの改正を行った。
- ④ 非常勤講師の手当支給に関する申し合わせの改正を行った。
- ⑤ 非常勤講師の選考についての改正を行った。

2. モデルコアカリキュラムへの対応（継続）

（1）Web シラバスの運用

Web シラバスシステムについて、令和4年度シラバスへの更新手続きに関する情報を全教員に社内メールで配信し、予定通り4月1日までに全科目で新年度シラバスを公開した。

(2) 令和4年度カリキュラムに関するMCC対応確認

令和2年度入学生から適用するカリキュラムの改正作業にあたり、科目の改廃等によるMCC対応の変更について調査し、全コースで完全に対応することを確認した。また本部からの指示に対応し、令和4年度開講科目についてMCCとの対応確認を行い、指定された入力管理表により報告した。

(3) 実験スキルシート導入の推進

H30年度入学生からのMCC完全適用に対応し、実験・実習科目における実験スキルシートの導入を推進するため、各コース教務委員より実験スキルシート作成について依頼を行った。また、令和3年5月19日教務主事補によるFD「実験・実習スキルの質保証のための評価指標について -スキルシートループリック整備と学生への周知」を実施した。-

(4) 情報リテラシーのMCC対応

令和3年情報リテラシーMCCの改定に伴い、本校の情報リテラシーの対応状況について検討した。その結果、現状の学修単位の授業形態では、未対応の項目があるほか、R4年度には数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の申請を予定していることから、情報リテラシーを履修単位にするほか、授業内容も見直してR4年度から実施することとした。

3. 教育の質保証への対応

(1) MCC特色部分の明確化

質保証のPDCAと個々の項目の関係性について、本校の特色部分の抽出を行った。特色部分を到達目標ベースで抽出することによって、DPに基づくCPに合致しているか確認する他、本校教職員が学校の特色を体験入学や中学校訪問などで説明できるようにした。本校では、系による授業や自主探究活動の他、各専門科目においてMCC外の特色ある授業が行われている。

(2) 分野横断的能力の育成プログラムの明確化

どの学年で分野横断的能力をどの程度育成するのか、アセスメント方法を決めて、育成マップを作製した。分野横断的能力は、汎用的技能、態度・指向性、相互的な学習経験と創造的思考力の3つ指標からなり、1から5学年で学修する科目によって構成される。以下に教務委員会にて作成した入学前から卒業までの自主探究活動を核とした分野横断的能力育成プログラムを示す。

八戸高専における自主探究活動を核とした分野横断的能力の育成プログラム

整理項目	年次	入学前 APとの関係	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	卒業後 DPとの関係
分野横断的能力の育成ステップ		・ものづくりや科学技術に興味	探究活動を自分の方法で行い、報告書を作成、発表する	信頼性の高いデータ収集を行い、科学的、客観的な考察をして発表する	信頼性の高いデータ収集を行い、科学的、客観的な考察をして発表する	卒業研究に向けて専門分野の論文を調査し、簡潔にまとめる	研究目的に沿った探究方法を自ら調査するとともに研究成果を既知の情報と関連付けて説明する	・専門知識 ・課題発見力、探究心
学生の状態 (ルーブリック)		・技術を通して社会に貢献する夢のある人	明確な目的があり、オリジナルなテーマを考へ出し、結論を導くことができる	明確な目的の元にオリジナルなテーマを考へ出し、結論を導くことができる	明確な探究目的に向かって、実現可能なテーマを設定し、結論を導くことができる	卒業研究に向けて専門分野の基礎的な内容を調査し、簡潔にまとめることができる	卒業研究で研究背景を理解し、明確な目的のもと研究を行い、他の研究と関連付けながら結果をまとめることができる	・専門知識 ・課題発見力、探究心 ・情報処理能力
学生の活動		・自分の意見や考えを表現できる人	自主探究活動において行われるファシリテータングアワー、中間報告会、ポスター発表会等の活動を通じて汎用的技能、態度・指向性総合的な学習経験と創造的な思考力を育成する	自主探究および分野横断的科目群によって育成	自主探究および分野横断的科目群によって育成	・卒業研究テーマに沿った研究活動の実施 ・ファシリテーターとして3年生以下の自主探究のサポートを行うことにより汎用的技能、態度・指向性を育成する	・卒業研究テーマに沿った研究活動の実施 ・ファシリテーターとして3年生以下の自主探究のサポートを行うことにより汎用的技能、態度・指向性を育成する	・豊かな人間性の涵養 ・コミュニケーション能力
教育方法		・AP全般	自主探究および分野横断的科目群によって育成	自主探究および分野横断的科目群によって育成	自主探究および分野横断的科目群によって育成	自主探究および分野横断的科目群によって育成	卒業研究および分野横断的科目群によって育成	・DP全般
評価（確認）方法		-	各科目のルーブリックに基づく					-
学生の認知		-	ポートフォリオ並びにポスター発表等の場における意見交換					-
教員の役割		-	・自主探究活動の年間計画に基づきコーディネーターとして自主探究活動を補助するほか、専門的な分野から研究アドバイスや研究のサポートを実施 ・分野横断的科目担当教員によるカリキュラムマップに基づく授業の実施			・卒業研究指導の他、各種セミナー、見学旅行、就職、進学支援等の総合的な指導を実施		-
地域等との関わり		・ものづくりや科学技術に興味 ・技術を通して社会に貢献	・海外学生と連携した国際自主探究の実施 ・社会実装を目指した自主探究活動 ・地域社会と連携した自主探究活動の実施 ・出前授業、公開講座等における本校学生の参加 ・企業内容説明会の参加			・企業等との共同研究 ・地域社会に関連した研究活動の実施 ・各種講演会 ・校外実習 ・企業内容説明会		地域社会への貢献

(3) e-portfolio の実施

令和2年度より1~3学年を対象としたポートフォリオ教育を実施してきた。学生自身がそれぞれポートフォリオを作成し、これを活用した教育を目指している。令和2年度は紙ベースで実施しているが、令和3年度より、Blackboard上でポートフォリオを作成、学生と担当が情報共有する体制を整えた。また、学生が成績を入力するExcelファイルを作成し、学年ごとの単位修得状況を把握できる体制とした。学生の成績データは、Blackboard上で担任教員と情報共有され、学習指導やクラス運営に活用できるシステムを構築した。令和3年度2月末には、1~4年生にe-portfolioのExcelファイルを配布し、使用方法について説明をおこなった。令和4年度からは全学生を対象としたe-portfolioを活用した指導が可能となる。

4. タイからの留学生への対応

(1) 新入生の対応

新型コロナウイルスの影響を受け、登校が6月14日となった。入国前は、遠隔授業を実施するとともに春学期到達度試験は、夏学期の放課後等を利用して実施した。

(2) タイ留学生日本語学習プログラムの作成

本校、入学前から4年修了時までのそれぞれの到達目標を設定し、入学前からの学習プログラムを作成した。入学前は11月以降週4時間程度オンラインで初等中等教育前期の理科教材を用いて日本語指導を行い、初級レベルの日本語能力と中学校科学用語の定着を目標とした。入学後は、1年修了時にN3、2年修了時にN2合格を目標とし、春、夏休み期間中に補講の実施を計画した。

5. 教務システムの更新

他高専の教務システムの運用状況等について調査し新教務システムの仕様について検討した。教務システムの更新については、予算確保を含め引き続き検討することとした。

6. その他

(1) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の申請に向けたカリキュラム改定

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）を令和4年5月に申請するため、現行カリキュラムの同プログラムへの適応状況について検討した。令和4年度の申請時には、令和3年度入学の留学生を除く1年生全員が本プログラムに関連する科目（ものづくり基礎、情報リテラシー、応用数学Ⅱ）を必修として受講する。さらに令和4年度のカリキュラム改定により数理・データサイエンスが追加され、令和4年度以降入学者すべてが同プログラムの履修対象となるようにカリキュラムが改定された。

FDの実施状況

- ① 令和3年5月19日 教務主事補
実験・実習スキルの質保証のための評価指標について
-スキルシートルーブリック整備と学生への周知-
- ② 令和3年11月10日 教務主事補
学校の特徴部分（MCC外）の明確化について

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	厚生補導委員会
行動計画	1. 学生指導・支援の充実 2. 学生会活動の活性化支援 3. 課外活動運営のための体制整備 4. 学生の社会性醸成の支援

1. 学生指導・支援の充実

(1) 学生支援について

各種奨学金制度等については校内での案内の掲示、学生・保護者へのメール、HPを活用した周知連絡等により、情報提供を推進し学生支援の充実を図っている。

日本学生支援機構給付型奨学金 65名

日本学生支援機構貸与型奨学金 78名

入学料免除：3分の2免除3名

前期授業料免除（修学支援新制度）：全額免除31名、3分の2免除15名、3分の1免除14名

後期授業料免除（修学支援新制度）：全額免除26名、3分の2免除22名、3分の1免除9名

卓越した学生に対する授業料免除：半額免除4名

青森県国公立高校生等奨学のための給付金：21名

(2) 学生指導について

指導だけでなく学生の持続的・継続的なケアを要する事案が多かった。

新型コロナウイルスへの感染防止については、本年度は全国高等専門学校体育大会の主管開催校であったことから、各競技団体と調整を行いながらガイドライン等を作成しつつ、競技日程の変更・調整を行った。学生、保護者に参加者を限定して高専祭を実施するなどの『人の流れを維持しつつ感染防止を図る対応』を求められる1年であった。

(3) 学校生活支援について

ア 生活・健康・学習目標の取組み

昨年度より対象を1学年から2，3学年まで拡大し実施している。

生活・健康・学習目標は、目標を掲示し、学生に意識付けをさせることで、目標をもって行動しようとする態度を養うことを目的としたものである。目標を通して学生一人一人が自己の生活や健康を見つめることで、自分の生活や健康状態の現状に気づき、行動を変えようとする意識形成につなげるものであり、今後も継続して実施してゆく予定である。集計データは、保健指導相談員及び学生主事が分析を行い、コメントを付して次月にクラス担任へ渡し、学生の動向把握やクラス指導・援助に活用されている。

イ 生活チェックシートの取組み

昨年度より対象を1学年から2～3学年まで拡大し実施している。

生活チェックシートは、主に学習に関する観点、主に行動に関する観点、主に健康・安全に関する観点の3観点20項目で構成されており、それぞれの項目に対して、Aできている、Bややできてい

る、Cあまりできていない、Dできていない、の4評価で作成されたシートで、学生一人一人が自身でセルフチェックを行うものであり、道徳的視点に基づく社会適応度を自己評価して自己改革の視点を身に付けさせることを目的としている。

今年度は、1回目の調査結果を基に、それぞれの学年の特性を、1学年は「不安と期待の時期」、2学年は「新しい仲間との絆づくりの時期」、3学年は「将来に向かって思いをもつ時期」と捉え、クラス毎に生活チェックシートの振り返る活動として、グループワークを実施した。ワークの内容は、学年によって異なるが、自己及びクラスの実態を基に、個人で良い点や改善点を考え、『個人の主観と客観的視点の違いに気付くこと』や『クラス内の意見を共有し合うことで課題に気づき、改善に取り組む雰囲気醸成すること』を目的としている。

また、1回目で一人一人が話し合った事柄を踏まえて学校生活を過ごし、学年末に2回目の生活チェックシートを実施してその結果を次年度の学級担任に引き継ぎ、学生の指導・援助に役立っている。

ウ 服装規則の改正

近年の制服のジェンダーレス化の傾向に合わせて、これまで防寒対策として認めていた女子学生のズボンの着用について、スカートに準じて着用を認めるものとし、防寒目的以外での着用を可能となるよう規則の改正を行った。少人数ではあるが規則改正に合わせてズボンを着用して登校する学生が見られるようになった。

2. 学生会活動の活性化支援

(1) 新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に異なる学生会活動を余儀なくされる中、新しい形での実施を模索する一年となった。5月に予定されていた校内体育大会が実施になったものの、7月に入ると感染拡大期となり、中止・延期となるイベントが相次いだ。学生総会は昨年度よりBlackboardを活用したオンライン形式で開催した。コロナ禍によりこれらイベントが中止・延期となる中でこれらの活動が改めて『学生交流』や『組織的連帯やストレス軽減の場』として機能していることが確認できた。10月23日～24日に開催が予定されていた高専祭は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から体育館を使用せず野外イベントの形式で実施した。10月以降の極めて短期間での準備となったが、高専祭実行委員会および学生会執行部が連携し、プログラムやパンフレット作成、ステージ設営業者および放送機器設備業者等の手配、近隣住民への挨拶など多くの業務をこなした。特にコロナ禍でありながら、学生達の手で5年ぶりに『花火』が復活した。また近隣住民の方へ開催のため事前に近隣住民へお知らせするなどの学生による地道な活動が実り、騒音等の苦情が全く無かったことも特筆されることであり、本年度の高専祭は地域の方の理解に支えられ、意義深いものとなった。

3. 課外活動運営のための体制整備

昨年度に引き続き令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、通常の部活動の実施が困難となり感染拡大状況に応じた対応が求められた。

(1) コロナ禍における課外活動の段階的再開の対応

下記の通り、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて都度、対応した。

- ・高校総体等の開催に合わせて自粛していた課外活動の取扱が懸案となった。
- ・7月以降再び感染拡大期となり、東北地区高等専門学校体育大会の中止が決定された。全国高等専門学校体育大会は実施が決定されたため、各競技において代表者を選抜する予選会等を行った。

- ・9月以降感染者数が減少に転じたことから、屋外および一部屋内の課外活動を再開することとなった。各体育館・武道館ともに1日1部活動に限定したローテーションにより使用を許可した（週1回の使用）。
- ・1月以降、新型コロナウイルスの全国的な感染の再拡大や青森県内での感染者の確認数の増加を受け、再び課外活動を中止することとした。

(2) コロナ禍における課外活動の課題

昨年度より新入生対象の部紹介を、Blackboardを活用したオンラインでの動画配信としたが、実感に乏しい環境での新入生の入部への動機付けとなるには難しいものがあり、先年度に引き続いて入部は減少の傾向となった。一方で、学生間相互の交流機会の減少は顕著であり、コロナ禍で仲間同士の連帯を養う活動が困難となっている。このことが今後の学生の就学意欲の低下や問題行動に繋がらないよう、支援と取組が必要となることが予想される。

4. 学生の社会性の醸成の支援

今年度のSNS等の学生間トラブルや低学年での試験不正行為等の問題行動の増加はコロナ禍により各種講演会を中止したことによる『社会を学ぶ機会』の減少の影響と考えられるため、可能な限り各種講演会を復活させ、社会性醸成のための支援を行った。

【令和3年度実施した講演会一覧】

○1年生

【性に関する講演会】

日時：令和3年11月9日（火）、11日（木）14：40～16：00

場所：合併教室

講師：外部講師

人数：学生172名、教員5名、事務職員1名

【いじめ防止講演会】

日時：令和3年10月26日（火）13：00～14：00、14：40～15：40

場所：合併教室

講師：外部講師

人数：学生172名、教員4名、事務職員1名

○2年生

【薬物乱用防止講演会】

日時：令和3年11月8日（月）、15日（月）14：40～16：10

場所：合併教室

講師：外部講師

人数：学生167名、教員4名、事務職員1名

○3年生

【交通安全講話】

日時：令和3年11月4日（木）、17日（水） 14：45～15：45

場所：合併教室

講師：外部講師

人数：学生182名、教員6名、事務職員2名

○5年生

【飲酒運転防止講座】

日時：令和3年11月1日（月） 10：30～11：30、

令和3年11月5日（金） 14：40～15：40

場所：合併教室、50周年記念ホール

講師：外部講師

人数：学生160名、教員4名、事務職員1名

【生活チェックWS】

日時：10月 5日（火） 14：40～16：10（Z3）

10月 8日（金） 14：40～16：10（C3）

11月 1日（月） 14：40～16：10（L3）

11月18日（木） 8：50～10：20（L4）

11月19日（金） 13：00～14：30（L2）

12月15日（水） 10：30～12：00（M3）

12月16日（木） 10：30～12：00（E3）

13：00～14：30（E2, C2）

場所：記念会館 ほか

講師：保健室長

人数：学生約380名、教員11名、事務職員1名

【教職員対象のいじめ講演会】

日時：令和3年11月11日（木） 15：00～17：00

場所：50周年記念ホール

講師：高専機構 総括学生参事

人数：教職員49名

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	寮務委員会
行動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 寮生の健康管理徹底と生活意識向上の支援（継続） 2. 寮生の自主的活動の支援（継続） 3. 施設・住環境の改善（継続） 4. 運営・管理業務の見直し（継続）

I. 寮生の健康管理徹底と生活意識向上の支援

1. 寮生の健康管理

1-1：クラスター感染を予防するための指針及び経過観察棟の設置

- ・コロナウイルスのクラスター感染を防止する観点から、『平熱プラス1℃以上（概ね37.5℃以上）』の発熱や体調不良になった場合には原則24時間以内に自宅へ帰宅させている。
- ・要経過観察となった学生は保護者の送迎を待つ段階から経過観察を行う『L棟』で待機することとした。『疑い』の段階での『分離』と『帰宅』を徹底に努めた。
- ・また、長期寮閉寮期間後の帰寮の際は、寮務委員で業務を分担しながら学生一人一人の『検温』と『健康チェック』を行ってから入室を許可し、体調不良者からの感染防止に努めた。

1-2：日常生活の対応

- ・寮生についてはマスクの着用徹底を呼び掛け、定時の検温報告を義務化し、平日はフロア単位でフロア長又は指導寮生が検温確認と点呼を行い、宿直者へ報告する体制に改めている。これによりフロア単位での指導的立場の寮生が一定の責任を果たすことにより寮生同士の連帯が強まることとなり、未報告によるトラブルが大幅に減少している。
- ・食事については密集を予防するため、食事時間を2交替制とし、食事する寮生数は通常時の半分程度とし、密度を超えないように努めた。また、給食業者の協力を得て食事時の換気とテーブル等の除菌を徹底しつつ、座席配置を対面しない形式に改め、黙食を呼び掛けるなどして飛沫感染の防止をはかった。
- ・入浴についても、時間入替制とし、衣類かごを使用せずに持参したビニール袋へ衣類を収納するように徹底し、器具の共用による感染の防止をはかった。
- ・アルバイトについては家庭の経済事情で特別に必要と認められる場合を除き、禁止とした。また、門限を昨年度から早め、市中感染からの寮内クラスターの発生防止に努めた。
- ・フロア集会についても大食堂及び小食堂を利用した『入替制』とし、密集・密接・密閉の防止に努めた。またフロア集会だよりを説明した後、各フロアに掲示することで、集会の時間短縮を図った。

1-3：緊急時の対応

- ・1-2に示すような感染拡大の防止に努めたが、寮内においても感染疑いの学生が発生したことにより、当該学生とその学生と同室の学生は経過観察で帰宅させることがあった。また、フロアでも寮内待機の対応を試みたが、校内で感染者が増え、一時的に寮を閉鎖する措置を取り、感染拡大防止に努めた。幸い、大きな感染拡大には至らなかったが、改めて寮内での防護・予防の難しさを痛感することとなった。待機時の食事提供等にも課題が残り、緊急時対応については、さらなる検討が必要と感じた。

II. 寮生の自主的活動の支援（継続）

2-1 寮生会執行部

・各委員長に対して、5月に年間計画を提出させて、6月に寮生総会を行い、コロナ下においても、感染対策を行いながら積極的な活動を行うよう促した。

2-2 各委員会の活動

(1)防犯・防災委員会

・コロナ禍ではあったが、留学生を含む寮生全員の防災意識を喚起するため、防災業者の協力を得て、11月に避難訓練を行った。『素早く・的確に避難すること』に焦点を絞り、実践的訓練となった中で避難完了までの時間が短く行うことができた。

(2)寮祭実行委員会

・寮祭についてはコロナ禍で中止を決定せざるを得なかった。しかしながら寮務委員と寮祭実行委員会との打合わせは継続的に実施し、次年度開催時に学生間でノウハウが継承されるように努めた。

(3)スポーツ委員会

・コロナ禍により寮内スポーツ大会は実施できなかったが、学生からの実施の要望、相談もあり、意欲を失わない寮生の姿を見ることができた。次年度は寮生同士の親睦を深められるように環境を整えながら実施を目指したい。

(4) ゴミゼロ運動

・八戸市が主催する『ゴミゼロ運動』は寮生と地域住民と一緒に地域の清掃活動に参加し、地域住民との親睦をはかる貴重な機会であったが、今年度も昨年に引き続いて中止となった。そこで今年度も、厚生・衛生委員会へ働き掛けを行い、寮生有志30名程度が参加して、11月に『落葉清掃活動』を実施することとなり、学寮と学校周辺道路の清掃活動を行った。

III. 施設・住環境の改善（継続）

1-1 国際フロア（A棟1階、B棟1階）ならびに体調不良者の待機棟の整備

・新たな混住型国際寮建設に伴い、本年度は留学生を含む、国際フロアを一時的に設置した。A棟1階ならびにB棟1階に光回線を導入したことにより、男女それぞれの国際フロアを設置した。また、体調不良で保護者の迎えを待つ学生や経過観察の学生にL棟を使用し、校内及び寮内でのクラスター感染のリスクを低減させるように機能し、本校のリスク管理上も重要な施設となった。

1-2：経過観察中の食事環境の整備

・学寮内での給食設備は大人数が一斉に食事をとる形に整備されており、そのままでは経過観察となった学生とその他の学生を分離する設備が無いことが課題となった。このため、給食委託事業者と打合せを重ね、経過観察中の学生の食事はテイクアウト形式で食器も全て使用後廃棄可能な紙製とし、L棟内の捕食室へ配達してもらい、学生が受取る体制を整えることが出来た。これにより待機時間が長い遠方からの保護者の到着までの間も安心して食事の提供を受けることができることになっている。

1-3：A棟屋上の雨漏り防止措置

・長年、課題となっていたA棟の雨漏り防止措置として、念願の工事を行うことができ、A棟4階の男子学生への居住環境改善を行うことができた。その他の棟も老朽化がみられるところが多々あり、新棟建設に加え、従来寮の改善も今後の課題と考えている。

2. 衛生環境の維持の徹底

- ・清掃業者による毎月1回程度の水回りおよび共通区域の清掃（前年度から継続）を行い、清潔な環境を維持した。また夏季休業期間中に洗面所・トイレの特別清掃を実施している。
- ・また、点呼後20：40には寮生が一斉に清掃活動を行う時間とし、ドアのノブの消毒や水回りの除菌・清掃を行うことにより、共通区域の衛生環境の維持の徹底に努めた。
- ・非接触式体温計を各フロアで1台ずつ保有することで、接触感染のリスクは無く、測定に時間を要しないため点呼時の短時間でも指導寮生がフロアの寮生の体温測定が可能となった。
- ・害虫（ゴキブリ、蛾等）への対策として、ゴキブリが目撃された補食室を中心に捕獲器・駆除剤を設置した。また、8月の寮閉鎖期間には、廊下・捕食室・談話室等へバルサン剤を噴霧し、害虫の駆除を行った。今後も状況を見ながら対応していく予定である。
- ・今年度も年度末の寮閉鎖時に全居室・廊下・トイレ・水回りの特別清掃を業者へ依頼して実施し、居住空間の清掃・除菌を徹底した。

3. 盗難防止対策

- ・入寮者（男子、女子）への個人用小型ロッカー（貴重品入れ）の貸与を行っている。これにより、寮生全員が小型ロッカーを持つことになった。今年度は金銭盗難事案の発生は報告されておらず、盗難防止に一定の成果が出ているものと見受けられる。

4. 寮生の要望を受けた改善

- ・女子寮生からの要望で、B棟以外に入居している女子寮生もB棟へ出入りできるように電子錠の設定を変更して施設利用の改善を図っている。また、緊急時に使用できる生理用品を女子棟内の全てのトイレ内に設置し、女性事務職員が定期的に巡回・補充する体制を整備している。このような女性目線の住環境の改善はこれまで実績が少なく、女子学生の入学者数が増加している本校で今後強化して取り組む必要がある。
- ・学生からの要望で、夜でも気温が下がらない場合には、部屋の電気を24時間使用できるように配慮を行った。今年度の夏も、暑くなった時期には、部屋の電気を24時間使用できるようにし、夜間でも居室で扇風機を使えるようにすることで熱中症予防に努めた。

IV. 運営・管理業務の見直し（継続）

4-1：寮務委員会実施体制の見直し

- ・寮務委員教員の業務負担を軽減するため、委員会は原則毎週実施されるフロア集会の直前に1時間以内で実施することとし、会議時間の短縮を図った。会議に併せてフロア集会での連絡事項の確認等も行って連絡漏れの防止を図っている。

4-2：対面式およびフロア親睦会の中止

- ・コロナ禍に伴い、今年も対面式・各フロアでの親睦会も中止せざるを得なかった。これらの行事は寮生どうしの交流を深めることに寄与し、自然な先輩後輩の関係が形成されるきっかけとなっている。この影響ためか、今年度は、先輩の注意に従わない等の問題行動が1年生に見受けられた。コロナ禍の影響で居室訪問も原則的に禁止となり学生同士の人間関係が希薄なものとなりがちであるため、今後実施方

法を工夫しながら学生同士がつながる取り組みを進めていきたい。

4-3：混住型国際寮の運営指針検討

- ・従来の国際フロアであったE棟の工事に加え、本年度は新しい混住型国際寮のI棟の新築工事が行われた。それに伴い、次年度の入寮に備え、国際寮の運営法の検討を行い、従来寮とは異なるユニット制を実施することにし、詳細についての検討を行った。

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	専攻科委員会
行動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナウイルス感染症に対する対応（継続） 2. 多様化する専攻科の制度整備（継続） 3. 留学（学外研修、ED等）の支援体制の整備（継続） 4. 入学者の確保および大学院進学への奨励と対策（継続）

1. 新型コロナウイルス感染症に対する対応(継続)

1.1 SHRと朝清掃について

昨年に引き続き、安否確認のための SHR、教室内の消毒を含めた朝清掃を本科と同様に実施した。SHRの方法は、コース主任が SHR 中にコース内の学生の出席を確認し、教務事務システムに 10:30 までに SHR の出席状況を入力する。欠席する場合には、学生本人から Microsoft Forms（様式 0）にて連絡させる。特に、連絡なく欠席している学生には、コース主任が連絡し状況を確認する。また、二日無断で欠席のまま本人と連絡が取れない場合は、コース主任が保護者に連絡するとともに、当該学生の状況を学生係に報告し、学生係はリスク管理対応共有メールを立ち上げる。朝清掃については、AM:M フレックス、AE:E フレックス、AC: 専攻科講義室、AZ: 専攻演習室 1・2 と分担して実施した。

1.2 学外研修の対応

学外研修は、青森県外で実施される学外研修への参加は認めず、青森県内で実施される学外研修または実施内容の明確なオンラインで実施される学外研修のみ参加を可能とした。この制約のせいか、単位修得した学生は専攻科 1 年生 19 名中 1 名のみであった。

1.3 専攻科 1 年生後期授業

専攻科 1 年生の授業は、国外学外研修のために、例年は 12 月に実施していたが、本年度は昨年度に引き続き、国外学外研修者がゼロとなったために、秋学期（10 月）から、特別研究 I B・エンジニアリングデザイン II・コース実験 II・工学研修の授業を開始した。

1.4 自宅における特別研究等の実施

令和 2 年度に引き続き、「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための自宅における特別研究の実施に関する要項」（9 月 13 日運営委員会承認）を定め、1 週間単位の許可制で、後期（令和 3 年 10 月 1 日～令和 4 年 2 月 16 日）に専攻科の特別研究 I B、工学研修、特別研究 II を、自らの PC 等で実施可能な特別研究のデータ分析、データ整理、図表作成、文章作成、発表資料作成に限って自宅で実施できるようにした。しかしながら、利用者が現れなかった。

1.5 東北・北海道地区高専専攻科産学連携シンポジウム

令和 2 年度に引き続き、Microsoft Teams によるオンライン開催（11 月 27 日）となった。また、本年度から北海道地区も加わるようになった。本校から専攻科 1 年生全員（19 名）と専攻科 2 年生 2 名が参加し、1・2 年生の教室にて Wi-Fi 接続によってアクセスした。AM1 学生 1 名が優秀賞を受賞した。

1.6 東北地区高専専攻科産学連携シンポジウム

昨年度は完全オンライン開催であったが、本年度は、感染症対策を行い、本年度は 1 月 19 日に対面開催とした。実施方法は、合併教室にて 10:30～12:00 に英語発表（一人あたり発表 3 分）に行い、50 周年記念ホールおよびセミナールームにて 13:00～15:00 にポスター発表および閉会式を行った。特にポスター発表は 2 部屋（記念ホールとセミナールーム）を使うことで、間隔を広げ密にならないよう

な工夫を施した。また、昨年に引き続き、プログラム、概要集、発表者へ連絡等の情報公開の場とする SharePoint サイト作成した。

2. 多様化する専攻科の制度整備(継続)

2.1 2022 年度専攻科外国人留学生特別選抜

第2回の4校合同(函館、苫小牧、八戸、仙台)による専攻科外国人留学生特別選抜を実施した。モンゴル国から7名の志願者があり、八戸高専には第2志望1名(AZ)、第3志望1名(AE)の応募があった。昨年に引き続き、モンゴルリエゾンオフィスの指定する会場でのオンライン開催となり、検査は事務担当校の函館高専が担当した。検査日は5月11日であったが、モンゴル国内でのロックダウンにより6月15日に延期になった。7月2日に合格発表を行い合格者は1名(仙台高専生産システムデザイン工学専攻)のみであった。

2023年度専攻科外国人留学生特別選抜については、事務担当校が苫小牧となり、前年度と同様の4校合同で実施することになった。学校別の出願要件として本校では、「日本語能力試験 N2 レベル以上に合格しており、かつ、TOEIC (L&R Test) のスコアが 450 点以上であること。」との条件を加えた。また、小論文試験の作問が分担で割り当てられ、令和3年度内に試験問題が確定することになった。募集要項は、2022年3月に公開され、出願期間：2022年4月1日～4月8日、検査日：2022年5月10日(検査会場：モンゴルリエゾンオフィスの指定する会場)、合格発表日：2022年5月27日となっている。

2.2 専攻科カリキュラムの変更

令和4年度以降入学者の専攻科カリキュラムを下記のように変更した(9月13日運営委員会変更予定承認、3月1日運営委員会承認)。①は、授業時間・自学自習時間の過密や、昨今の本科を含めた授業担当、時間割編成の変遷により、授業担当教員の時間割編成が困難さを改善するものであり、②・③については、担当教員の退職・新規採用によるもの、また、④については、建築学に関する専攻科教育の充実を図るものである。

- ① 全コース共通：産業システム工学専攻・各コース：各コースで開設されている専門科目「機械システムデザインコース実験Ⅰ」、「電気情報システム工学コース実験Ⅰ」、「マテリアル・バイオ工学コース実験Ⅰ」、「環境都市・建築デザインコース実験Ⅰ」(必修、3単位、1年前期)の単位数を2単位へ削減する。
- ② AMコース：専門科目「トライボロジー特論」(選択、2単位、2年前期)を廃止し、専門科目「精密加工特論」(選択、2単位、2年前期)を新設する。
- ③ ACコース：専門科目「分析化学特論」(選択、2単位、2年前期)の学年別配当を1年前期に変更する。
- ④ AZコース：専門科目「建築デザイン特論」(選択、2単位、1年前期)、「建築構造特論」(選択、2単位、1年前期)、「建築構法特論」(選択、2単位、2年後期)の建築系3科目を新設する。

2.3 英語能力に関する修了要件の変更

グローバルエンジニア育成事業(高度育成プログラム)において「TOEICを専攻科において入試要件の+100を修了要件とする」と申請書に明記されていることから、令和4年度以降入学者の英語能力に関する修了要件を TOEIC L&R Test 400 点以上から TOEIC L&R Test 500 点以上に変更を行った(3月1日運営委員会承認)。また、この変更に合わせて、「いずれかの英語能力の修得し

なければならない」ものの中に TOEIC400 点以上と同列で含まれていた「実用英語技能検定 2 級以上」および「技術英語能力検定 2 級以上」の項目を廃止し、TOEFL の名称も現状の試験科目に合わせ、TOEFL iBT Test 40 点以上とした。なお、令和 5 年度入学者については、TOEIC L&R Test 550 点、令和 6 年度入学者については、TOEIC L&R Test 600 点と変更していく予定である。

3. 留学(学外研修、ED 等)の支援体制の整備(継続)

今年度の専攻科における海外学外研修は計画されていたものもあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施に至らなかった。一方、グローバルエンジニア育成事業(高度育成)の一環として、2月17・18日に行われた「専攻科生ファシリテーター育成プログラム」に9名(専攻科生1名、本科生8名(このうち専攻科進学予定者3名))が参加し、英語によるファシリテーター役の育成に役立てられた。

エンジニアリングデザイン科目においては、国際的な課題の実施は困難であったため、地域課題の問題発見および解決に対して集中的に取り組んだ。

4. 入学者の確保および大学院進学への奨励と対策(継続)

平成 30 年度より専攻科の定員減に向けて検討を重ね、推薦入学の総枠を 20 名から 16 名に減らすと共に、入学者の確保を目指した。また、入学確約書の提出期限を従来通りの 12 月への移行により増募に努めてきた。令和 4 年度の入学者は 24 名となり、定員充足率 85%である。

大学院進学への奨励として、専攻科 1 年生を対象として 4 月 6 日と 7 月 15 日の 2 回に渡って校長による「キャリア教育」において企業が求める人材や大学院での研究体制等の講義を実施した。大学院からの案内、ポスターについては適宜掲示を行ってきた。多くの大学・大学院の説明会は、多くがオンラインで行われ、希望する学生が参加した。令和 3 年度修了生の令和 4 年入学大学院進学者は 11 名であり、大学院進学率 48%であった。大学院進学者の内訳は、学校推薦 9 名、自己推薦 1 名、学力 1 名であった。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	施設整備計画委員会
行動計画	1. 施設・設備の維持・整備と改善（継続）

1. 施設・設備の維持・整備と改善

(1) 現有設備の維持・整備に関する事項

従来の特種装置維持対象設備、マスタープラン導入設備、補正予算による導入設備を対象とした維持運営費について希望調査を実施し、委員会での審議を経て予算を配分した。計7件の配分希望があったが、年度当初から保守契約が必要なものを中心として、その他個別の状況を考慮して4件の配分を決定した。

令和元年度から令和3年度の補正予算(設備整備費補助金)において、計14件が採択され、学内の大型設備が増加傾向にあること、年々運営費交付金が削減されていること等を考慮し、学校共通経費から支出する「教育研究設備維持運営費」を必要最小限に抑えなければならない状況となってきた。このような状況を鑑み、令和2年度の施設整備計画委員会において、令和3年度以降の予算配分の方針について審議し、今後は特に『全学的共同利用設備』の観点に重きを置き、配分を決定することとした。新たな配分方針に基づき、維持運営費の希望調査時に機器の使用簿を確認し、全学的共同利用設備としての利用実績を加味した上での配分決定を行った。

なお、例年、第1次～第2次の調査を実施しているが、令和3年度は令和2年度と同様に、予算の確保が困難であったため、年間保守契約を対象とする第1次調査のみとした。

(2) 施設の維持・整備と改善に関する事項

本校の抱えるインフラの老朽化等計画的に整備が必要である事項について、情報共有を行い随時予算要求することとした。

令和元年度補正の事業として国際寮新営工事および寄宿舍E棟改修、令和2年度当初事業としてライフライン再生事業、令和2年度補正事業として混住型学生寮新営工事などを進めており、施設整備が進んでいる。国際寮とライフライン再生事業については令和3年度中に完成した。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	紀要編集委員会
行動計画	1. 紀要投稿数の増募推進（継続）

1. 紀要投稿数の増募推進（継続）

教員の秋学期の研究成果を紀要に反映させるため令和2年度に引き続き、締め切りを11月に設定した。査読論文数を多くする観点から、今年度から目標件数（総合科学教育科5、各専門コース3件の合計17件）を廃止したため、令和3年度は例年より少なく8件の教育論文・研究論文が集まった。

平成29年度より図書館のホームページと併せて科学技術振興機構のJ-stageでも公開しており、引き続き令和3年度紀要についても登録、公開している。

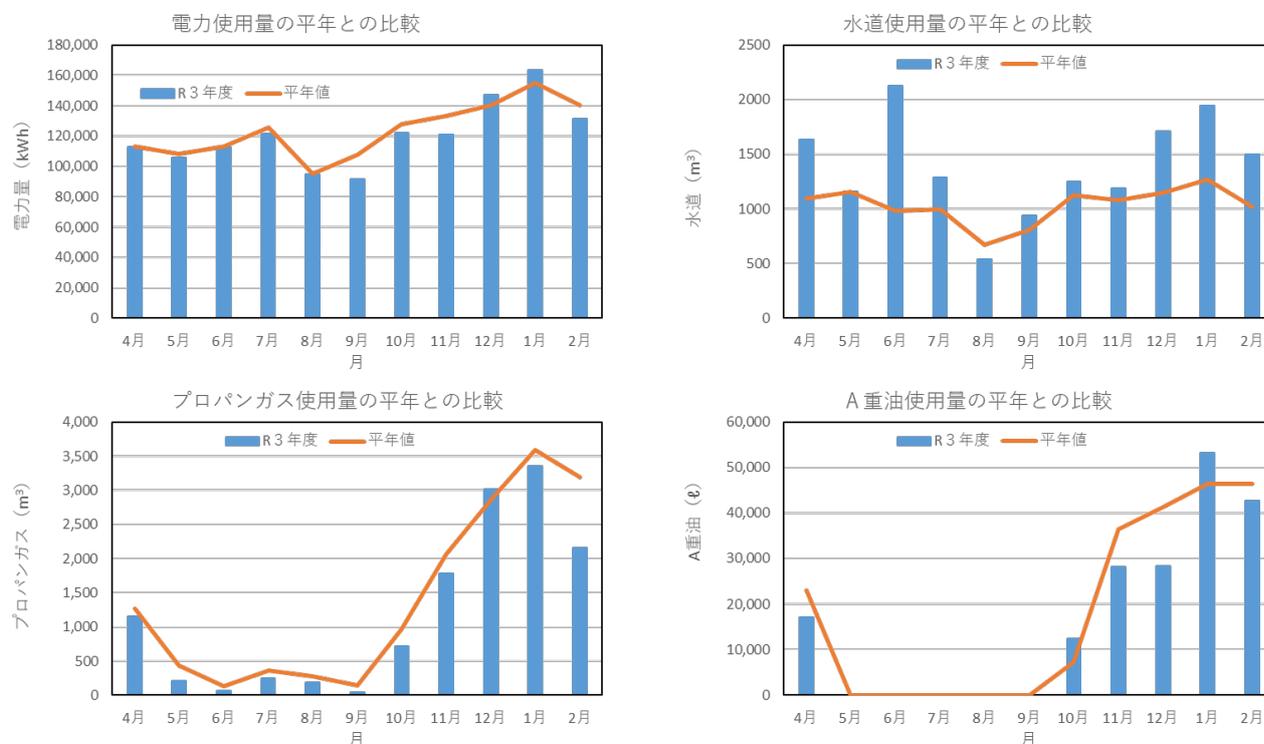
また51高専中おそらく6高専が紀要を廃止し紀要の意義が問われるなかで、調査データを紹介した論文の掲載、査読付き論文につながる初期段階の成果の掲載、等が少なくとも必要として継続して発行している。

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

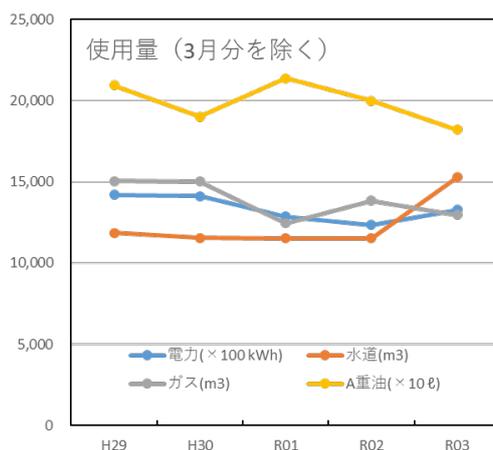
委員会等名称	環境マネジメント委員会
行動計画	1. 環境負荷の少ないキャンパス作り（継続）

環境負荷の少ないキャンパスづくりの取組みの一環として、光熱水量節約の啓蒙を兼ね、電気、水道、プロパンガス、A重油の使用量及び金額を毎月の教員会議で報告することを継続している。また、これらの使用量と気温との関係を知る目的で月別平均温度も報告している。

下のグラフは、令和3年度の月別の使用量を平年値と比較したものである。おおむね平年と同様の推移を示しており、3月分を除く合計の対平年比は電力97.5%、水道134%、プロパンガス84.6%、A重油90.5%と、水道を除き平年値以下である。水道が大幅に増加したのは漏水が原因とみられる。



下のグラフは平成29年度から令和3年度までの使用量（3月分を除く）の変化を表している。年度による増減はあるものの、全体的には減少傾向が認められる。



－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	国際交流センター
行動計画	1. グローバルエンジニア育成に向けた国際交流の推進（継続） 2. 低学年生のタイ人留学生への対応および学内外でのホームステイの基盤づくり（継続） 3. 教職員のグローバル教育（継続） 4. 情報発信の推進（継続）

1. グローバルエンジニア育成に向けた国際交流の推進（継続）

- a. 海外受入・派遣：令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため海外派遣を中止した。しかし令和4年度に向けての派遣・受け入れのための計画書申請で以下のものが採択された。

【2022年度JASSO採択プログラム申請結果一覧】						
	プログラム番号	プログラム名	プログラム形態	計画区分	国名	申請タイプ/ 申請区分
派遣	HTA2270200101	グローバル人材育成を目指した工学教育研修－ニュージーランド（オタゴポリテクニク）との国際交流－	短期研修・研究型	一般公募	ニュージーランド	A
	HTB2270200101	ウッドブリッジの耐力コンテストを通じた技術教育研修－ニュージーランドへの派遣－	短期研修・研究型	一般公募	ニュージーランド	B
	HTB2270200102	総合的流砂系管理を通じた工学教育研修－ベトナム（CKT）との国際交流－	短期研修・研究型	一般公募	ベトナム	B
	HTB2270200103	中国文化理解と工学技術習得の研修－中国（大連交通大学）への派遣－	短期研修・研究型	一般公募	中国	B
	HTB2270200104	学寮を活用した英語による技術教育研修－フランス技術短期大学（IUT）と東北地区6高専および旭川高専、函館高専、小山高専、長岡高専、岐阜高専との相互交流（派遣）－	短期研修・研究型	一般公募	フランス	B
受入	UTB2270200101	学寮を活用した英語による技術教育研修－フランス技術短期大学（IUT）と東北地区6高専および旭川高専、函館高専、小山高専、長岡高専、岐阜高専との相互交流（受入）－	短期研修・研究型	一般公募	フランス	B

また、トビタテ留学 JAPAN 日本代表プログラム【高校生コース】に本科3年生が採択され、コロナ禍のなか渡航ができなかったためイギリスの英語オンライン学習に切り替えて修了した。オンライン学習をとおして英語学習法やスキルを日常生活に生かすことで学生の専門である建築の分野で応用していきたいという前向きな姿勢が見受けられた。

国費高校生留学促進事業の一環として行われている青森県高校生海外留学促進事業補助金に、モンゴル、タイ、シンガポール、ベトナムへの短期派遣で申請した(2022年2月)。

- b. 英語教育におけるオンライン英会話プログラムの導入：1～3年生のグローバル実践英語の一環として Native Camp や English Central のオンライン英会話プログラムを授業や夏休み等を活用し、積極的に導入した。日本語の通じないネイティブ講師との英会話を体験することにより、低学年から実践的な英語コミュニケーション力の向上へとつなげる。
- c. 国際自主探究：新型コロナウイルス感染拡大防止のため海外派遣は中止となった。その代わりにモンゴルの協定校の学生と TV 会議システム、SNS、本校のモンゴル人留学生等をとおして国際自主探究を行った。現地学生との連絡のやり取りに難しさを感じながらも、学生たちは積極的に取り組んでいた。

d. グローバルエンジニア育成にむけた研修の実施

○自主探究にむけた Pre-Training

【日時】 令和4年2月18日（金）13:00～14:45 (L1/L2) 15:00～16:45 (L3/L4)

【対象】 本科1年生全員

【実施】 こども国連環境会議推進協会（東京と各自宅オンライン接続にて実施）

【内容】 SDGsを学ぶプログラムにより、相互に関連した17の目標と169のターゲットから成る持続可能な目標を題材に、自主探究に向けた早期課題発見につなげていけるような内容とした。

○未来に繋げる異文化交流プロジェクト

【日時】 令和3年9月7日（火）、9月8日（水）9月9日（木）

9月13日（月）、9月14日（水）※各日13:00～14:00

【対象】 意欲のある日本人学生（希望者）20名

【実施】 株式会社 With The World（ネパール・兵庫・八戸をオンライン接続にて実施）

【内容】 コロナ禍において、国際交流が通常どおりに行われないなか、オンライン上でもやり方次第で可能であることを体験させ、今後も活用していけるよう、その手段と方法を涵養する。それぞれの意見を英語でディスカッションすることにより、国際舞台での活躍に向けて、意識の向上を図ることを目的とする。

【その他】 本プログラムに参加した学生は、タイ PCSHS チョンブリ校との交流を最終目的とする。

○ファシリテーターフォローアップ研修およびファシリテータ養成プログラム

R2年度の参加者3名のフォローアップ研修

【日時】 令和4年2月17日（木）9:30～12:00

R3年度の参加者10名の養成講座

【日時】 令和4年2月17日（木）13:00～14:30、14:40～16:10

令和4年2月18日（金）13:00～14:30、14:40～16:10

【対象】 日本人学生（希望者）10名、日本人ファシリテーター3名（R2年度の参加者）

【実施】 With The World（オンライン接続にて実施）

【内容】 専門能力や技術力を伴った英語コミュニケーション能力（「KOSEN 英語」）を、発展させることに取り組む。本プログラムは、高学年生を対象として、英語によるファシリテーター役を育成するために実施する。

【その他】 ファシリテーターとしての教育を受けた学生が、ファシリテーター役として、ディスカッションの流れをサポートした。

○TOEIC ワークショップ

・ TOEIC-IP 試験対策講座（4年生対象）

【日時】 13:00～14:00（全10回）

令和3年12月20日(月)、12月21日(火)、12月22日(水)、12月23日(木)
令和4年1月11日(火)、1月12日(水)、1月13日(木)、1月14日(金)
1月17日(月)、1月18日(火)

○英検ワークショップ

・英検1次試験対策講座

英検試験の約2週間前から5回程度の講座を実施した。(第1回～3回)

・英検2次面接対策指導

【全体】2次試験の約2週間前に受験予定者を対象にした面接講座を実施した。

【個別】2次試験前の約1週間、放課後に希望者を対象にした面接個別指導を実施した。

(GLC担当教員、英国非常勤講師が対応)

第2回、第3回それぞれ延べ30人程度の学生が活用した。

○英語力向上の必要な学生への個別指導

例年年度初めに行われる英語実力試験において、点数が低かった学生を対象にグローバルラーニングセンターにおいて英語のサポート指導を行った。

2. 低学年生のタイ人留学生への対応および学内外でのホームステイの基盤づくり(継続)

a. 低学年生のタイ人留学生への対応：タイ王国プリンセスチュラポーンハイスクール(PCSHS)事業

i) 学習面・生活面：

- 1学年生(2名)の来日が約1ヶ月遅れたため、その間授業(例：英語、数学、物理など)や特別活動をオンラインで実施することで、来日の際にスムーズにカリキュラムを続けることができ、クラスの中にすぐに馴染むことができた。
- メンター制度やチューター制度を使い、学業・生活面を日本人学生がサポートした。
- 定期的に国際交流センター委員が留学生の成績・生活面談を行った。
- カウンセリングの設置：新型コロナウイルス感染拡大防止のため保健室・学校医と連携してカウンセリングの機会を設けた(日本語)。また、在京タイ大使館とも連携して日本語のカウンセリングセッションの間LINEで日本語とタイ語で行えるようにした。
- トレーニングの実施：新型コロナウイルス感染拡大における対応の一環として衛生トレーニング、生活における諸注意や長期休みの過ごし方などのガイダンスを行った。
- コロナ禍における学校のイベント：基本的に小規模な形(3~4人程度)での気分転換の場・機会を設けた(例：教員と三密を避けた食事や学内運動場の活用、授業の一環で社会見学等)。また、日本人のクラスメイト・友人宅に1泊2日のショートホームステイで日本文化を体験した。さらに、秋には十和田湖畔の小トリップで留学生と日本人学生が交流・リフレッシュできる時間を作った。
- 春休みの日本語・理系科目の補講：成績に心配のある学生を中心に日本語および理系科目の補講を行った。さらに専門コースと提携してはんだ付けやオリジナルミラー作りと学年・コースを超えた留学生対象のワークショップを行った。

ii) 新規入学生において

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、例年行っていた派遣や受入研修等は中止となった。PCSHSの1st selection campもオンラインでの実施となり、本校の各コース教員がオンラインコンテンツの作成・配信また実際にPCSHS学生と専門コース教員も含めたQ&Aを行った。また、授業コンテンツに英語訳を付し、入学希望者に向けて高専教育の紹介を行った。また、入学希望者の学生からの質疑応答では、担当教員がコースの詳細や、学校生活について英語で紹介した。

b. 学内外のホームステイの基盤づくり

長期休業期間中の留学生のホームステイ受け入れについて、近隣の自治体（田子町）に相談した。受け入れに向けて調整を進めており、早ければ令和4年の夏季休業期間中に低学年生のホームステイを実現させる。

3. 教職員のグローバル教育（継続）

本校教職員を対象としたオンライン英会話（Native Camp）やオンライン英語学習プログラム（アリゾナ大学）を設け、希望者7名が参加した。

4. 情報発信の推進

- タイのチュラポーンサイエンスハイスクールのオンラインサマープログラムにおいて留学生の本校での生活について紹介動画を作成し、配信した。また、学校紹介動画等もタイ語のスク립トや英語吹き替えしたものを作成した。
- グローバルエンジニア育成事業で実施したプロジェクトや講座、国際自主探究の様子をホームページに掲載した。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	知的財産委員会
行動計画	1. 知的財産戦略の普及啓発（継続）

1. 委員会等

(1) 第1回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和3年4月26日（月）

会場：LAN 会議

事項：特願の審査請求について

出席者：委員長・委員

(2) 第2回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和3年4月28日（水）

会場：LAN 会議

事項：発明評価書の作成について

出席者：委員長・委員

(3) 第3回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和3年6月29日（火）

会場：LAN 会議

事項：発明届の承継について

出席者：委員長・委員

(4) 第4回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和3年9月17日（金）

会場：LAN 会議

事項：特許の年金支払いについて

出席者：委員長・委員

(5) 第5回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和3年12月8日（水）

会場：LAN 会議

事項：特許の外国出願について

出席者：委員長・委員

(6) 第6回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和3年12月21日（火）

会場：LAN 会議

事項：特許の優先権主張について

出席者：委員長・委員

(7) 第7回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和4年1月14日（金）

会場：LAN 会議

事項：発明評価書の作成について

出席者：委員長・委員

(8) 第8回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和4年2月28日（月）

会場：LAN 会議

事項：発明届の承継について

出席者：委員長・委員

(9) 第9回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和4年3月14日（月）

会場：LAN 会議

事項：特許の外国出願について

出席者：委員長・委員

(10) 第10回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和4年3月17日（木）

会場：LAN 会議

事項：特許権利登録維持について

出席者：委員長・委員

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	広報委員会
行動計画	1. 八戸高専ホームページの内容の更新と充実（継続） 2. キャンパスガイド等の内容充実（継続） 3. 本校公式SNS運用の検討

1. 八戸高専ホームページの内容の更新と充実（継続）

新聞等掲載記事（新聞、テレビ・ラジオ、刊行物で計72件）の増加に伴い、新着情報の更新を多くしホームページからの情報発信を強化した。令和3年度は、本校HP新着情報へ学生、教職員の表彰12件を含む約150件記事を掲載した。

また、継続してホームページのスマートフォン対応も進めた。

2. キャンパスガイド等の内容充実（継続）

カレッジガイドの就職・進学ページ、国際交流ページの充実を図った。挿入写真を更新し、表紙等には学生モデルを採用した。また、中学生にとってより理解しやすいために各コース出身者の将来像を分かりやすく表記した。

学生の差し込み写真を増やしたり、QRコードで詳細情報のリンク先を示したりして、より分かりやすく親しみやすいイメージに変更した。

3. 本校公式SNS運用の検討

広報委員会内のWebページ改善グループが中心になって、本校HPの中からインパクトが強いと思われるもの、新しい学校やコースの紹介動画を試験的にSNSで公開している。閲覧状況等効果を考慮して本格化させたい。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	総合情報センター委員会
行動計画	1. Microsoft365 への対応（継続） 2. 情報セキュリティ対策の充実（継続）

1. Microsoft365 への対応（継続）

(1) パスワード変更に対する対応

Microsoft 365 のパスワードの有効期限は 400 日で設定されている。このため、教務・厚生補導両委員会と連携の上、教育研究支援センター職員の協力を得て、年度初めに学生のパスワード変更を行った。なお、年度初めにパスワードの変更をしなかった学生に対しては、担任を通じてフォローを行った。

(2) 安否確認システムの構築

平成 27 年度にリスク管理室から安否確認システム構築の依頼を受け、ネットワーク管理室で受信振り分けフォルダの作成等、システムの構築を行なった。Microsoft 365 に届いたメールのスマートフォンでの確認方法、Microsoft 365 から携帯電話へのメール転送の設定方法をマニュアル化し、学生、教職員に周知した。令和 2 年度からリスク管理室主体で安否確認訓練を実施したため、令和 3 年度から送信アドレスの更新を行っている。

(3) その他

高専の校内ネットワークシステムなどの情報基盤について、令和 2 年度に引き続き整備計画に基づき再配置を行った。

2. 情報セキュリティ対策の充実（継続）

(1) 情報セキュリティインシデント発生に向けた対応

平成 28 年には、インシデント発生時の初期対応の手引き「ウィルスに感染！？と思ったら【すぐやる三箇条】」を作成し、研究室等への掲示を依頼した。高専機構から提供される情報セキュリティ、脆弱性対策情報に関しては、社内メールで注意喚起を継続して行った。また、長期休業前後に注意喚起を行い、再度、【すぐやる三箇条】を送付し、標的型攻撃メール訓練実施時にも再度周知を行った。

機構本部主導の令和 3 年度標的型メール対応訓練は計 2 回行われ、教職員の対応はセキュリティマインドが根付いていると判断できるものであった。

(2) 多要素認証の対応

高専機構のセキュリティ対策の方針に基づき、令和 3 年度は非常勤を含む新任の教職員、全学生を対象に、Microsoft 365 のログイン時の他要素認証の設定を行った。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	図書館委員会
行動計画	1. 交流室の積極的な活用について(継続) 2. 読書習慣を身につけさせるための各種行事の充実(継続) 3. 蔵書点検の実施(継続) 4. 資格試験コーナーの充実(継続)

1. 交流室の積極的な活用について(継続)

平成27年度に整備した無線アクセスWifiを平成28年度は外部講師等に開放可能とする規定が整備され、令和3年度は392時間、1ヶ月平均33時間の予約が入った(無線アクセスポイントは、交流室内に4台設置、学校全体では順次設置し学寮I棟の2台を含め合計72台になっている)。使用目的に関しては、平成29年度から引き続き、講義、各種会議や学生のサークル活動、ワークショップや東北地区高専文化部発表会の展示など多様な用途で使用された。

2. 読書習慣を身につけさせるための各種行事の充実(継続)

主な行事として、ブックハンティング、ニューズレター発行、ビブリオバトルがあった。ブックハンティングは、7月に八戸ブックセンターで実施した。学生会図書委員を中心に学生が参加し、自然科学、技術工学、小説などを選書した。学生会図書委員会主体で行なってきた行事に、ニューズレター発行とビブリオバトルがあるが、ニューズレターは発行されたが、ブリオバトルは学生会図書委員会活動の低迷により、令和2年度に引き続き、計画したが中止せざるを得なかった。

3. 蔵書点検の実施(継続)

令和3年度は、教員研究室3カ所の蔵書点検を実施した。所在不明の図書の追跡調査を行い、図書情報の効率的な整理・更新が可能となった。

4. 資格試験コーナーの充実(継続)

学生のニーズの高い資格参考書を中心に蔵書を充実させた。また、利用率が高く、発行から経年している資格参考書を更新した。また、世界的に関心が高まっているSDGsのコーナーを新設した。このような取り組みにより、コロナ禍で外部の方の入館を制限せざるを得ない期間があったにもかかわらず、資格試験の書籍を含め約4,400あまりの書籍の貸出数となっている。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	地域テクノセンター
行動計画	1. 産学官金民連携の推進（継続） 2. 共同研究の推進（継続） 3. 地域への貢献（継続）

1. 産学官金民連携の推進

1.1 官との連携事業の実施

(1) タスクフォース

日 時：4月23日（金）13:30～15:30

開催方法：Web 会議システム（Teams）

参加者：地域テクノセンター長

(2) 八戸市企業誘致促進協議会

日 時：4月26日（月）

幹事会 16:00～16:30 総 会 16:30～17:00

場 所：八戸パークホテル

参加者：地域テクノセンター長

(3) 産学官金連携 Day 準備プロジェクト及び第1回課題別プロジェクト検討会議

（タスクフォース）

日 時：5月17日（月）13:30～15:00

開催方法：Web 会議

参加者：地域テクノセンター長

(4) 令和3年度 第1回 公益財団法人21あおもり産業総合支援センター理事会

日 時：5月31日（月）13:30～14:30

場 所：青森県共同ビル

参加者：地域テクノセンター長

(5) 産官学情報交換会（弘前大学 社会連携部）

日 時：8月2日（月） 13:30～15:00

場 所：青森市内

参加者：地域テクノセンター長

(6) 令和3年度第1回産学官連携推進会議

日 時：9月7日（火） 10:00～

場 所：八戸支庁本館4階 会議室

参加者：地域テクノセンター長

(7) イノベーション・ネットワークあおもり タスクフォース会議

日 時：9月15日(水) 13:30~15:00

場 所：Web会議システム

参 加 者：地域テクノセンター長

(8) 八戸産学官連携推進会議における八戸学の接続テスト

日 時：令和3年10月27日(水) 13:30~14:30

場 所：ウェブ開催

出席者：地域テクノセンター長ほか2名

(9) 八戸産学官連携推進会議における八戸学の4校同時配信

日 時：令和3年11月17日(水) 12:30~14:30

場 所：ウェブ開催

出席者：地域テクノセンター長ほか2名

(10) 令和3年度第3回産学官連携推進会議事務局会議

日 時：令和4年1月24日(月) 13:30~15:30

場 所：八戸市庁本館3階 第4委員会室

出席者：地域テクノセンター長

(11) 令和3年度第3回産学官連携推進会議

日 時：令和4年2月14日(月) 14:00~15:00

場 所：八戸市庁本館4階会議室A

出席者：校長、地域テクノセンター長

(12) イノベーション・ネットワークあおもり タスクフォース会議

日 時：令和4年3月23日(水) 13:30~15:30

場 所：Web会議システム

参 加 者：地域テクノセンター長

(13) 令和3年度(公)21あおもり産業総合支援センター第3回理事会

日 時：令和4年3月25日(金) 13:30~14:30

場 所：アラスカ(青森市)

出席者：地域テクノセンター長

1.2 民との連携事業の実施

(1) 令和3年度「八戸工業高等専門学校キャリア教育プログラム」企業内容説明会

本校学生に対するキャリア教育の一環として、企業の事業内容を紹介する場を提供し、学生に将来の職業観や勤労観を涵養させることを目的として、本校産業技術振興会会員企業対象の企業内容説明会を Online 形式で開催

日 時：令和4年3月1日（火）9：00～16：00

場 所：オンライン開催

参加者：本科3年生、4年生、専攻科1年生、企業165社

1.3 学学連携の実施

(1) 第一ブロック研究推進ボード会議

日 時：4月16日（金） 15:00～17:00

開催方法：オンライン会議

参加者：地域テクノセンター長

(2) 第一ブロック研究推進ボード会議（第2回）

日 時：8月3日（火） 15:00～17:00

開催方法：オンライン会議

参加者：地域テクノセンター長

(3) KOSEN EXPO（コウセン エキスポ）

日 時：10月20日（水）-21（木）

場 所：オンライン会場

(4) 第9回4校学術交流集会の開催

日 時：令和3年11月24日（水）10：00～12：00

場 所：各高専でウェブによる開催

参加者：校長、地域テクノセンター長、総務課長補佐、地域連携係長、他発表者

(5) 令和3年度第一ブロック研究推進ボード会議

日 時：令和4年2月1日（火）13：30～15：30

場 所：オンライン会議

出席者：地域テクノセンター長

1.4 学官連携の実施

(1) 令和3年度 青森創生人材育成・定着推進協議会 八戸ブロック連絡会議

日 時：令和3年7月26日（月）14：30～15：30

場 所：八戸工業高等専門学校 3階 大会議室

参加者：地域テクノセンター長、副地域テクノセンター長2名、地域連携係長、地域連携係員

(2) 「青森創生人材育成・定着推進協議会」産官学情報交換会

日 時：令和4年3月1日（火）13：30～15：00

場 所：Web 開催

参加者：地域連携係長

2. 共同研究の推進

2.1 地域企業や他機関等との共同研究

(1) 令和3年度の地域との共同研究は次表のとおりである。

表1 研究担当者および研究題目

研究担当者	研究題目
校長 圓山 重直	高速度表面温度センサーとダブル熱パルスレーダーの開発
マテリアル・バイオ工学コース 准教授 新井 宏忠	液液界面における物質移動特性の解明
マテリアル・バイオ工学コース 教授 長谷川 章	耐熱性 γ -アルミナの各種触媒への応用およびバイオマス前処理手法の検討
マテリアル・バイオ工学コース 教授 長谷川 章 助教 小船 茉理奈	水素合成触媒の開発
マテリアル・バイオ工学コース 准教授 山本 歩	青森ヒバの抗菌・抗真菌活性評価
マテリアル・バイオ工学コース 准教授 本間 哲雄	亜臨界技術によるプラスチックのケミカルリサイクル
校長 圓山 重直	超高精度多点温度校正したサーミスタと高精度定抵抗体を利用し、高い信頼性が保証されたセンサの商品化をする。
マテリアル・バイオ工学コース 准教授 本間 哲雄	亜臨界水を用いた DBP の分解除去法に関する研究 (2021年度)
機械・医工学コース 助教 田口 恭輔	「高専-長岡技科大 共同研究」超音波振動援用ドリル加工時における材料表層金属結晶構造がバリの生成におよぼす影響

(2) 令和3年度の受託研究は次表のとおりである。

表2 研究担当者および研究題目

研究担当者	研究題目
環境都市・建築デザインコース 教授 丸岡 晃	マリカルチャビッグデータの分析
総合科学教育科 教授 戸田山みどり	次世代人材育成事業 令和3年度「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」「はばたけ SciTech Girls (サイテック・ガールズ) -北東北産業都市八戸発! 青森リケジョの人材交流型育成-」

機械・医工学コース 教授 沢村 利洋	エアーカーテン発生器により生じる流れの可視化と評価
マテリアル・バイオ工学コース 准教授 本間 哲雄	触媒水熱分解法による DBP 分解検討および分子動力学計算によるガラスの構造評価 (2021 年度)
環境都市・建築デザインコース 准教授 馬渡 龍	令和 3 年度見て感じる「健やか住宅」リフォーム前住環境測定業務委託

3. 地域への貢献

(1) 令和 3 年度八戸工業高等専門学校産業技術振興会事業

日 時：令和 3 年 6 月 15 日（火）16：00～16：30 役員会

場 所：八戸グランドホテル

内 容：役員会 「令和 2 年度行事報告、令和 3 年度行事承認」

※総会は紙面で実施

(2) その他

第 7 回八戸高専まちなか文化祭及びライフ研究成果報告会

～医工連携による産業の創出～

日 時：令和 3 年 12 月 18 日（土） 13：00～15：00

場 所：八戸まちなか広場 マチニワ

参加者：八戸高専学生、教職員

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	地域文化研究センター
行動計画	1. 地域における教養教育活動 2. 『地域文化研究』発行見直しの検討 3. ホームページの整備等、情報発信の推進 4. 総合科学教育科教員による研究紹介

1. 地域における教養教育活動

島守中学校で図形の性質を利用したブーメラン作成の出前授業を実施した。

JST 女子中学生の理系進路選択支援プログラム(八戸高専連携)の一環で、八戸ブックセンターでの講演「アカデミックトーク：リケジョに語る宇宙の謎」を行った。

2. 『地域文化研究』発行見直しの検討

令和元年度末に「地域文化研究 第27号」を印刷物ではなくPDFファイルとしてホームページ上で公開して発行を行った。今年度も「地域文化研究」についてどのようにすべきかを検討している。次年度も引き続きどのような形で発行するのか、あるいはしないのか検討を続ける予定である。

3. ホームページの整備等、情報発信の推進

本校ホームページには地域文化研究センターのページがあり、更新を行った。レイアウトの変更を行い、さらに今年度の新しい取り組みとして総合科学教育科教員による研究紹介について記載した。

4. 総合科学教育科教員による研究紹介

総合科学教育科教員による、地域文化研究センター講演会を teams により開催した。「地域在住一般集団における肺機能と体組成の関連」及び「地図がつくったタイ ～ アジア圏のネーション形成に関する一考察 ～」について講演し、30名弱の教職員の参加があった。

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	廃水処理施設管理運営委員会
行動計画	1. 廃水処理についての認識の強化 2. 廃水処理施設設備の更新

1. 廃水処理についての認識の強化

1) 教職員への啓蒙活動

全教員に対して、排水への固形ゴミ流入の禁止、実験室廃水系の確認、実験廃液処理の手続き、水銀の排出禁止について説明し、ご協力をお願いした（教員会議、メール連絡等）。また、ガルーンに掲載した「廃水処理の手引き」を用いて、廃水処理についての認識強化に努めた。

2) 学生への啓蒙活動

教員会議にて、廃水への固形ゴミ流入禁止、廃水処理施設の重要性について説明し、学生への周知を依頼した。また、学生実験等で、廃水処理について説明し理解を深めるよう努力した。

2. 廃水処理施設機器の更新

今年度、廃水処理施設は大きなトラブルもなく運転することが出来た。しかし、各種設備の老朽化が進んでおり、処理能力が追い付いていない。今後は、新しい寮棟建設など、さらに処理量が増加することが予想され、早期に全面的な更新が望まれる。

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	相談室
行動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 支援体制の整備の推進（障害者相談室との協力・連携） 2. 要支援学生の把握と支援 3. COVID-19 禍での支援対応 4. 学生支援の連携体制について

1. 支援体制の整備の推進（障害者相談室との協力・連携）

- ①今年度もカウンセリング活動は面談日を基本的に週2回として継続して行った。水曜日に、カウンセラー（医師）、カウンセラー（臨床心理士）、火・金曜日にカウンセラー（臨床心理士）、火・水曜日に、カウンセラー（公認心理師）が担当した。スクールソーシャルワーカー（SSW）は、週3回（3時間/日）来校して様々な問題や困難を抱えた学生を外部機関と連携して支援していただいたほか、とくに後述する障害のある学生に対する合理的配慮に関して、保護者や医療機関と連携しつつ、とくに秋学期以降には、授業に付き添ってのサポートを実施していただいた。
- ②今年度初頭より、合理的配慮の態勢整備と対応に注力してきた。実質的に年度が明けてからのスタートとなったが、高専機構のガイドラインに従い、（仮）合理的配慮検討委員会（三主事、相談室長、該当クラス担任、該当コース主任、学生課長、教務係長、学生係長、SSWほか）を組織し、高専機構のスーパーバイザーや外部専門家のアドバイスを得ながら、学生・保護者との話し合いを重ね、配慮内容を確認していくとともに、教科担当者の協力を得ながら見守りとサポートを続けた。夏季からはさらに養護学校校長を長年勤め、現在は大学の学生支援コーディネーターほか障害支援に携わる先生を学生支援担当の非常勤講師として招聘し、支援指導方法について常時助言を得ている。
- ③研修を通じた情報収集は、前年度はすべてオンラインだったが、今年度は対面で行われたものもあった。12/16～17に東京で実施された高専機構主催の全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修には、室長、学生主事、看護師の3名が参加した。オンラインでは11/1～2に開催されたJASSO「心の問題と成長支援ワークショップ」には室長が参加した。11/25にZOOM（鶴岡高専主催）で開催された東北地区学生相談室連絡協議会には室長と看護師が参加し、合理的配慮対応、ハラスメント防止、予防教育のテーマを中心に協議した。

2. 要支援学生の把握と支援

今年度、要支援学生を把握するため以下の調査等を実施した。

「学校適応感尺度調査」(Forms 回答)は全学生対象に6月に実施した。同調査では未回答の学生に対して、クラス担任を通じて再三回答入力を促すがかなり時間がかかり、集計とまとめは夏休み明けの9～10月になってしまった。さらに第2回目を12月に実施したが、年明け冬学期途中からコロナ対応の登校禁止期間となり、各クラス担任から学生へのコンタクトの中で未回答者への入力呼びかけを行うが年度内にまとめまで至らなかった。

一方で、保健室長が中心となって、「生活チェックシート」による調査を6月および1月に実施し、さらに10月にワークショップの指導をした。

また以上とは別に、いじめ対策委員会企画調整部会として「いじめ防止アンケート」を年4回実施し、

この集計・分析を相談室で担っている。

これらの調査結果をもとに、担任、相談員、看護師、スクールソーシャルワーカー、保健室長が連携しながら要支援学生の把握に努め、必要な学生にはカウンセラー等との相談を勧めている。

1年生を対象に毎年度初頭に行ってきた「構成的グループエンカウンター」は、これを相談室主管で実施する必要性が見直され、1学年担任の要望により今年はスマホ・SNSの使い方研修に切り替え、保健室長のファシリテートと学生主事補および相談室の補佐で実施した。今後は「構成的グループエンカウンター」および「スマホ・SNS研修」は、クラス担任主体で特活を利用して進めてもらう方針である。

合理的配慮に関しては、翌年度の配慮を要する新入学生の把握と対応のため、入学選抜合格発表の後、各中学校に配慮や支援を要する生徒について問合せ、回答のあった中学校にはできるだけ直接赴き、あるいはテレビ会議等で詳細な情報交換を行い、必要に応じて合理的配慮対象候補として1学年担任と協力し、入学手続き日に本人・保護者と面接を行った。

3. COVID-19 禍での支援対応

続くコロナ禍の下、本校でも随時感染防止のための遠隔授業実施（原則登校禁止）期間を設けているが、期間中も相談室は開室を継続しており、相談室を利用する学生は登校を許可してもらっている。前年度中よりコロナ下で学生相談を継続していくため、電話相談や Microsoft Teams を利用したテレビ通話相談をできる体制を整備したが、実際のカウンセラーによるカウンセリングは対面が原則であり、遠隔相談はすでにカウンセラーとの関係ができていた学生のための補助的な手段と考えており、実際には対面以外の相談はまだ行ったことはない。

遠隔授業や長期休暇前には「メッセージ 学生のみなさんへ」を今年度の相談室パンフレットと共に全学生の家庭に郵送し、コロナ禍の中で心掛けてもらいたいことを示すとともに、不安な時は相談室に連絡するよう促してきた。

4. 学生支援の連携体制について

1-②で触れた通り、障害者差別解消法に基づき高等教育機関における「合理的配慮」への対応が、今年度から相談室業務の中で大きなウェイトを占めることになった。これはもちろん相談室としてのみならず、教務・厚生補導・寮務の3委員会およびクラス担任、各科・コース長、授業担当教員、および学生課を中心とする事務部との連携が不可欠であり、また学生支援担当講師やSSWなど専門家の協力が必要とされる課題である。今年度は支援を要する学生のケーススタディをひたすら重ねるとともに、他高専や大学等の学生支援体制について情報を収集し、専門家の助言を得ながら、まずは臨機応変にケース会議を重ね、相談室を中心に学生・保護者との信頼関係を構築するスキルを高めてきた。これを（仮）学生支援センターとしての仕組みに繋げていくことが今後の課題である。

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	危機管理関係
行動計画	1. 新型コロナウイルス感染症への対応（継続） 2. 緊急時の情報伝達および安否確認方法の改善（継続） 3. 学内におけるリスクの調査（継続）

1. 新型コロナウイルス感染症への対応

(1) 新型コロナウイルス感染症への対応全般について

新型コロナウイルス感染症の流行が始まって2年目となる令和3年度は、5月の大型連休の第4波、お盆頃からの第5波、年明けからのオミクロン株による第6波と、3度の全国的な感染拡大に見舞われた。これを受けて政府や文部科学省、高専機構本部などから新型コロナへの対応方針が発表された。本校でもこれらの方針を踏まえるのはもちろん、地域の感染拡大の状況を見極めつつ、随時、八戸市保健所にも相談しながら様々な対応を行った。

新型コロナウイルス感染症への対応については、状況に応じて短期間のうちに対応を決定して実行することが求められることが多い。そこでリスク管理室長が教務、寮務、保健室の関係者と連携し、実質的なコロナ担当チームとして機動的に対応する体制をとった。感染者の発生状況等は、随時リスク管理室長が校長に報告するとともに、重要事項については臨時開催も含めた企画室会議で迅速に判断・決定を行う体制とした。対策の基本的方針等については、リスク管理室長が原案を作成して社内メール等によりリスク管理室員に諮り、その結果を企画室会議へ提案した。一方、遠隔授業、行事予定変更、時間割変更については教務委員会、課外活動や毎日の消毒等については厚生補導委員会、学寮における健康観察や感染対策については寮務委員会が、それぞれ対応案を作成して企画室会議に提案し実施した。

(2) 感染対策の方針・指針、行動制限等

① 感染対策の方針と体制・行動指針

新型コロナウイルス感染症に対する本校の対応方針と体制、および行動指針等については、令和2年度に策定した方針等を基本としつつ、1年間の対応状況を踏まえて内容を全面的に見直し、令和3年度版として作成した。令和3年度版における主な変更点は以下のとおりである。

(対応方針と体制)

- ・基本方針に、本校における対面授業実施の前提として学寮があること、また学寮の運営のために感染拡大防止が重要であること、および所轄保健所と連携することを明示した。
- ・体制として、各種様式の管理と個別事案への対応を行う「個別情報初期対応チーム」を設置した。
- ・所轄保健所との対応窓口を総務課長からリスク管理室長に変更した。
- ・学生から学校へのコロナに関する連絡は、電話ではなく Microsoft の Forms を利用した各種様式によることを基本と位置付けた。
- ・本校の社会的責任を果たすため、本校の学生や教職員に感染者が発生した場合はホームページで公表することを明示した。
- ・校内や寮内における感染拡大を最小限にとどめるため、感染を疑う症状となった場合等の個人における感染拡大防止対策に加え、各種行事や課外活動等の集団における対策の基本方針を明示した。
- ・感染を疑う症状や県外移動等のために自宅待機となる期間は、学びの保障の観点から該当学生に対し

て可能な限り授業のライブ配信を行うことを明示した。

- ・補足事項として、情報共有の範囲を各様式の内容に応じて3種類に分類した。

(行動指針)

- ・「体調不良となった場合」、「県外へ移動した場合」、「自身や身近な人が濃厚接触者に特定された場合」、「感染した場合」それぞれについて、【様式】による報告とそれに対する学校からの指示など、新しい方法に即した内容に更新した。
- ・自宅待機となった期間は、授業をライブ配信で受講できること、試験の場合には追試験の対象となることを明示した。
- ・学校への連絡に用いる各種様式について、【様式0】のメニュー選択ですべての様式にアクセス可能となったことを記載した。
- ・コロナに関連するいじめや誹謗中傷の防止について記載した。

これらの見直しを踏まえ、年度当初に発出した主な文書等は下記のとおりである。このうち「対応方針と体制」、「行動指針」、「コロナ疑いフローチャート」は、全学生と保護者に一斉メールおよびさくら連絡網で送信した。また令和3年度の開始にあたっては、学生と直接接する課外活動指導員の方々に対してもコロナ対応について協力をお願いした。

- ・令和3年度 新型コロナウイルス感染症への対応方針と体制 (2021.04.23)
- ・令和3年度 新型コロナウイルス感染症に関する行動指針 (学生版 2021.04.23)
- ・令和3年度 新型コロナウイルス感染症に関する行動指針 (教職員版 2021.05.17)
- ・新型コロナウイルス感染症疑い対応フローチャート (2021.04.23)
- ・学校生活における「新しい生活様式」ハンドブック (2021.04.12)
- ・教室清掃・消毒マニュアル (R03 年度改訂版 2021.04.05)
- ・北辰寮における新型コロナウイルス感染症対策について (2021.05.13)
- ・感染者発生時の公表方針 (2020.10.20)

② 感染拡大状況に応じた行動制限等の見直し

令和3年の夏に始まった感染の第5波は9月に入って急速に収束し、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置も9月30日に全都道府県で解除された。青森県は、その後も新規感染者数が東北6県で最多となるなど収束が遅れたものの、10月には新規感染者ゼロの日もみられるようになった。一方、令和3年度に始まった新型コロナワクチンの接種について、本校は八戸市の職域接種に加わり9月と10月に学生、保護者、教職員(課外活動指導員を含む)とその配偶者、清掃業者や給食業者などの従業員を対象とした接種を行った。その結果、10月下旬には70%以上の学生が2回の接種を済ませることができた。

このような状況を踏まえ、県外へ移動した際や身近な人が検査対象になった場合などに本校が独自にお願いしている自宅待機等の行動制限について、11月1日から当面の間、期間を短縮するなどの緩和を行うこととした。また2回のワクチン接種を済ませている場合には一層の緩和を行うものとし、そのための接種状況の調査を行った。なお、感染力の強いオミクロン株により令和4年1月から新規感染者が急拡大した第6波を機に、ワクチンの2回接種による行動制限の緩和措置は中止した。

(3) 感染疑いに関する連絡体制

①各種報告「様式」の更新

新型コロナウイルス感染症に関する学生から学校への連絡は、電話ではなく、学生自身がスマートフォン等から各種【様式】に入力することを原則とした。連絡の目的に応じて下記の【様式0】～【様式7】(様

式2・3を除く)を整備し、【様式0】のメニューを選択することで全ての様式にリンクするように変更した。これにより学生は【様式0】のURLのみを登録しておけばよいことになり、煩雑さが解消された。またURLが1種類で済むため、種々の文書に【様式0】のURLとQRコードを掲載することが可能となり、周知しやすくなった。

令和3年度当初の【様式0】のメニューは以下の通りであり、必要に応じて変更しながら運用した。なお、様式番号の指示がない項目は、そのまま【様式0】に入力するものである。また【様式1】は看護師が感染疑い症状と認めた体調不良者のみに入力を指示するため、メニューに含まれていない。

- ① 発熱などの風邪症状での欠席を伝えるため
- ② 風邪症状以外の体調不良による欠席を伝えるため
- ③ 体調不良以外の欠席を伝えるため【様式6】へ
- ④ 体調不良による自宅待機中の体調報告のため
- ⑤ 県外移動(事前・事後)および感染拡大地域からの来訪者との接触を報告・相談するため【様式5】へ
- ⑥ 感染者の濃厚接触者と特定された報告のため【様式7】へ
- ⑦ PCR・抗原検査結果を受けた報告のため【様式4】へ
- ⑧ 身近にPCR検査対象となった人がいるため【様式7】へ
- ⑨ 身近な人の職場や学校で感染者が発生したことを知らせるため【様式7】へ
- ⑩ コロナ関連の差別・中傷などに関する連絡・相談のため【様式6】へ
- ⑪ その他

② 新入生への対応

新入生は情報リテラシーの授業でMicrosoft365のアカウント登録をするまでの間、TeamsやOutlookを利用することができない。また中学校を卒業したばかりの状態であり、新型コロナに関する連絡等を保護者が行う場合もあるものと考えられる。そこで、新入生の新型コロナに関する学校への連絡については、【様式0】から【様式7】までの全ての内容を取り入れた【新入生専用様式】を新たに立ち上げ、アカウントの無い新入生や保護者もアクセスできるようにした。同様式は、新入生が本校のシステム利用になれるまでの期間を見込んで5月の大型連休までと設定し、それ以降は通常の【様式0】～【様式7】を利用してもらうこととした。

本校の新型コロナ対応については、入学式後に保護者へ、始業式の午後に新入生へそれぞれ説明した。新入生への説明では、実際に各自のスマートフォンから新入生様式にアクセスしてもらい、必要な時にすぐ利用できるよう配慮した。

(4) 感染拡大状況に応じた緊急対応等

令和3年度に発生した第4波から第6波による全国的な感染拡大により、県内でも新規感染者の急激な増加などに見舞われた。これに伴い、本校でも陽性者や濃厚接触者が発生した。このような地域や校内の状況に応じ、校内での感染拡大が懸念される事態となった場合には、クラス単位や学校全体での遠隔授業を実施するなどの対応を行った。

① クラス単位の自宅待機

令和3年5月、同7月、および令和4年1月に、本校学生それぞれ1名が同居家族等の濃厚接触者に特定されたことに伴い、クラス内での感染拡大を防止するため、当該学生の検査結果が判明するまでの間、所属するクラス全員を自宅待機とした。またこのうち1名は直前まで部活動に参加していたため、該当の部員にも自宅待機を依頼した。検査結果はいずれも場合も陰性であり、待機期間は3日間であった。自宅

待機期間中の授業はライブ配信で受講してもらった。

② 夏季休業中の登校停止

令和3年8月からの感染第5波の影響が青森県で長引いたため、9月に入っても八戸市の人口10万人当たりの新規感染者数が、国が示す「ステージ4」（爆発的感染拡大）の基準を大きく上回る状況であった。本校は夏季休業中であったが、課外活動などで登校する学生間での感染や、秋学期開始に向けた感染拡大を防止するため、9月7日以降、夏季休業明けまでの間、特別研究・卒業研究等を含めた学生の登校を停止することとした。なお、この間に実施したワクチンの職域接種や就職・進学に関する手続き等のために登校する場合は除外した。

③ オミクロン株による感染急拡大への対応（一斉遠隔授業等）

感染力が強く潜伏期間が短いオミクロン株により、令和4年1月以降、国内では第6波の感染急拡大が発生した。青森県でも感染者が急増し、1月20日には県内の新規感染者数が229名にのぼる状況となった。本校では、学生にとって重要な学年末試験や卒業研究発表会、自主探究発表会などを控え、また本校の入学試験の時期を控えている時期であることから、急遽、下記のような対応を取ることにした。

- ・1月24日（月）～28日（金）は臨時授業時間割編成による授業の前倒し
- ・1月31日（月）～2月4日（金）は全校一斉遠隔授業
- ・冬学期到達度試験をオンラインで実施
- ・冬学期到達度試験の解説及び採点確認をオンラインで実施（一部、答案用紙を郵送）
- ・自主探究発表会をオンラインで実施
- ・企業内容説明会をオンラインで実施
- ・学年修了式をオンラインで実施

（5）体調不良者や濃厚接触者等への対応状況

【様式0】に報告される体調不良者のうち、発熱等の感染疑い症状と認められる学生に対してはコロナ担当である保健室の看護師が直接連絡を取り、自宅待機や回復の確認、登校再開日の連絡等を行った。休日の体調確認にはリスク管理室長も協力した。

一方、【様式7】に報告される濃厚接触等の学生については、コロナ担当者から直接電話をして状況を確認し、自宅待機等の指示や接触者の確認、必要な場合には接触者への自宅待機指示等を行った。【様式7】には教職員の情報も入力され、また一つの事案について複数回入力されることもあるが、令和3年度に入力された総件数は約530件であった。このうち230件以上は、オミクロン株による第6波が発生した冬季休業明け以降のものである。

【様式7】への報告件数増加とともに、陽性となる学生・教職員も増加した。令和3年度末までに本校で陽性が確認された学生・教職員は、令和2年度に1名、令和3年度に14名の計15名である。令和3年度の14名のうち2名は8月の第5波、12名は2月下旬から3月末までの第6波の時期であった。

（6）市内4高等教育機関連携による新型コロナワクチン接種

八戸市内の4高等教育機関（本校、八戸工業大学、八戸学院大学、八戸学院短期大学）の学長、校長が集まる会議の席上、本校校長から4機関が連携して新型コロナワクチンの大学拠点接種を申請する提案がなされた。その結果、各校の担当者が集まるタスクフォース会議を設置して検討するとともに、八戸市へ協力を要請することになった。6月17日に4機関の代表が八戸市長へ協力要請を行ったところ、市長からは、ちょうど八戸市が市内の企業をまとめて実施することを計画していた「八戸版職域接種」に、4校が連

携した一機関として加わる形で接種できるように協力したいとの回答があった。そこで6月下旬に急遽、本校の4年生以上の学生と教職員に接種希望調査を行い、結果を市の実行委員会へ報告した。また、リスク管理室長を含む教職員5名が本校のワクチン接種業務の担当することになった。

職域接種で使用されるモデルナ製のワクチンは、当初、「18歳以上」が対象であったため、本校でも主に4学年以上の学生と教職員を対象に接種希望調査を行った。その後、同ワクチンの対象年齢が「12歳以上」に引き下げられたこと、及び接種枠に余裕があるとの連絡があったことから、最終的には全学生、教職員、保護者および教職員の配偶者の希望者を対象に接種することとした。なお、令和3年6月に文科省の初等中等教育局および厚労省健康局より、中学校や高校でのワクチン集団接種を推奨しない旨の通知があったが、本校では「あくまでも学生自身や保護者の希望がある場合に、接種の機会を提供する」趣旨であることを明記して接種希望の調査を行った。また、接種を希望する全学生について同意書の提出を求め、接種についての保護者の同意を確認することとした。

八戸市実行委員会との調整の結果、本校では9月に第1回、10月に第2回の接種を行うことになった。接種希望日と移動手段に応じて、本校に割り当てられた日程の中で個々人の接種時間枠を調整し、メールにより全員に通知した。第1回の日程は夏季休業中となったため、遠方からの学生に配慮して個々の接種時間を割り振った。また、本校と接種会場間の借り上げバスのほか、弘前駅前－青森駅前－接種会場間を往復するバスを1台運行することとした。

接種当日は、借上げバスへの乗車確認、会場での受付や誘導など、十数名の本校教職員を協力スタッフとして配置した。事前打合せも行った結果、全日程ともスムーズに運営することができた。

9月の第1回と10月の第2回に接種した本校関係者の人数は下記のとおりである。学生520名、保護者88名、教職員・配偶者90名の計698名がワクチン接種を受け、これを含めて全学生の85%以上が2回の接種を終えることができた。

職域接種におけるワクチン接種者数

	1回目	2回目	学生	教職員	保護者	教職員 配偶者	合計
A日程	9月10日(金)	10月8日(金)	190	59	0	1	250
B日程	9月11日(土)	10月9日(土)	165	16	88	4	273
C日程	9月17日(金)	10月15日(金)	165	9	0	1	175
		合計	520	84	88	6	698

2. 緊急時の情報伝達および安否確認方法の改善

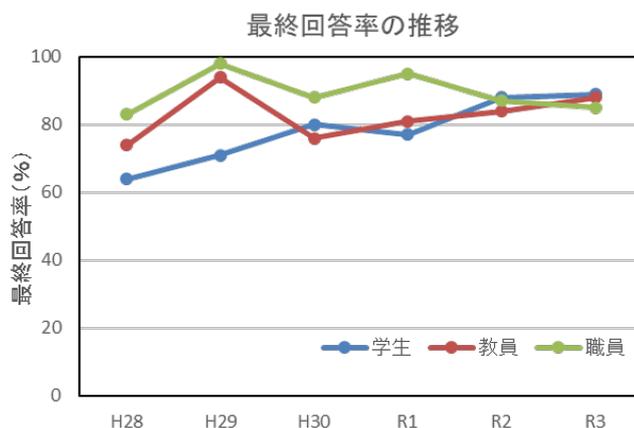
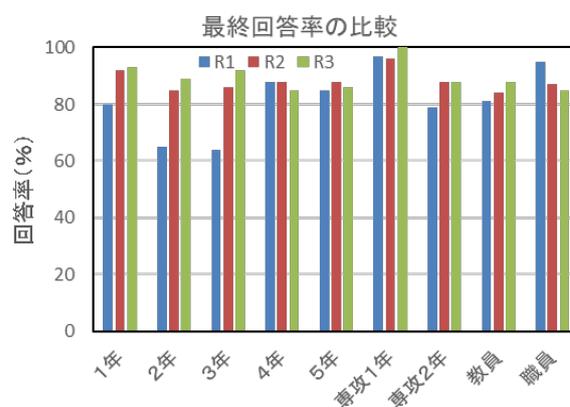
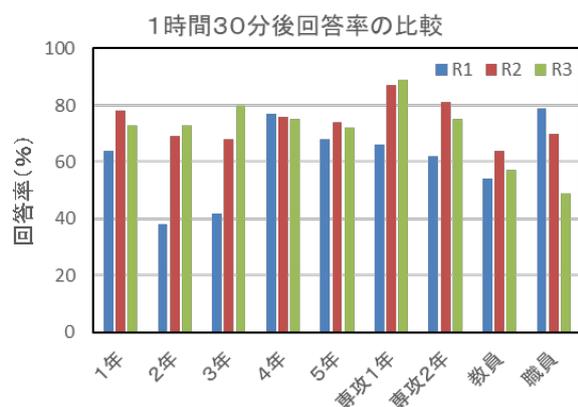
(1) 緊急時の情報伝達

保護者向けの情報伝達手段として令和2年度に導入した「さくら連絡網」の利用が定着した。新型コロナウイルス関連の一斉遠隔授業実施等に関する緊急連絡をはじめ、ワクチン職域接種や教務、学生、寮務などの業務においても大いに活用されている。

(2) 安否確認訓練の実施

大地震等の際に学生や教職員の安否を確認する手段として、令和2年度に Forms を利用する方法を試行し、安否確認訓練を実施した。その結果、Outlook に一斉送信したメールに返信してもらう従来の方法に比べ、特に低学年の学生の回答率が向上し、発信から1時間30分時点での回答率も向上する結果となった。そこで令和3年度も、引き続き Forms を用いた安否確認訓練を実施し、回答状況の確認を行った。

令和3年度の訓練は、実施時期を「令和4年3月初旬」として周知し、実際には3月2日(水)13:30に一斉メールを発信して実施した。回答状況を下のグラフに示す。訓練開始から1時間30分後には学生の全区分で回答率が72%を超えており、昨年同様に低学年の回答状況が良好である。Forms 利用の効果と思われる。同時点における教職員の回答率がやや低いのは、訓練実施日が学年修了式の勤務時間内であったことが影響している可能性がある。また最終回答率では多くの区分で過去最高となっており、平成30年度以降、学生と教職員の回答率が向上していることがわかる。



3. 学内におけるリスクの調査

安全衛生専門委員会では、学内における教育・研究環境及び職場環境の状況を調査し安全を確保するために、毎月、衛生管理者による巡回点検及び各コース委員による職場安全パトロールを実施した。また毎月1回開催される同委員会において、各担当者からその結果を報告してもらい、改善に向けた意見交換を実施した。改善が必要と認められた場合には、各設備等の管理者および施設係に連絡して改善を促している。令和3年度に審議された主な内容は以下のとおりである。

- ① 巡回点検において、固定されないままで廊下に設置されているロッカー等や非常口付近に置かれている物品についての指摘があり、担当者へ改善を依頼した結果、いずれも対処されたことを確認した。
- ② 金属アーク溶接時に発生する溶接ヒュームが、令和3年4月1日から特定化学物質障害予防規則の特定化学物質（管理第2類物質）に指定されたことに伴い、本校のものづくりセンターで行われている同作業についての対応が必要となった。具体的には、溶接工場に設置されている局所排気装置について、定期的な自主点検が義務付けられ、その結果に応じて装置に溜まった粉塵の産廃処理やフィルターの交換が必要となった。また定期的に行っている作業環境測定の結果、本校では作業時に粒子捕集効率80%以上の防塵マスクの着用が必須となることが指摘された。これらについて安全衛生専門委員会で検討した結果、局所排気装置の定期点検とフィルター交換等は学校として予算を措置して実施することとした。また防塵マスクについては、すでに学生実習等を含めて着用させていることが確認され、今後はマスク購入などの予算措置を行うこととした。
- ③ 寮務委員会より安全衛生専門委員会へ、新学寮棟の建設に伴い変更になった学寮敷地内の取付道路通行に関する検討依頼があった。具体的にはE棟南側に設置された通路のE棟玄関付近が狭く、一方通行にする必要があるのではないかという提案であった。本委員会の委員の協力を得て、実際に公用車で走行するなどの検討を行った結果、時計方向回り（図書館→E棟→ものづくりセンター）の一方通行とするのが妥当との結論を得て寮務委員会に回答した。

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	男女共同参画委員会
行動計画	1. 女性教職員および女子学生の研究・就業・就学に対する支援 2. ダイバーシティ推進に関する広報の継続

1. 女性教職員および女子学生の研究・就業・就学に対する支援

(1) 文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）関連事業への参加

代表機関：岩手大学

共同実施機関：弘前大学、八戸工業高等専門学校、一関工業高等専門学校、東北農業研究センター、株式会社ミクニ

1. 第15回 北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議運営委員会

日時：7月13日（火） 10：30～12：00（オンライン）

参加者：委員長

2. 北東北女性研究者 研究・交流フェア2021

日時：9月6日（月） 13：00～16：30（オンライン）

内容：女性研究者研究紹介（共同研究/一般研究）

研究リーダー力向上支援セミナー

研究者交流会

主催：岩手大学、北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議

共催：いわて女性研究者支援ネットワーク

あおもりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク

対象：本事業実施機関及び参加機関の他、関係機関、企業等の女性研究者・技術者・大学院生等

参加者：委員長ほか

3. 牽引型担当者会議

日時：11月2日（火） 10:30-12:00

参加者：委員長

4. （株）ミクニ 企業交流会（講演会）

日時：12月22日（水） 14:40-16:00

参加者：M3&E3 学生他

5. 第10回北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議（メール会議）

日時：12月3日（金）～12月9日（木）

6. 第4回アドバイザーボード

日 時：2021年12月24日（金） 13:30～15:00

場 所：岩手大学 事務局2階 第一会議室

開催方法：オンライン（ZOOM）との併用

出席者：委員長

7. 女性研究者交流会およびロールモデル講演会（JST 女子中高生理系進路選択支援事業と共済）

日 時：2022年3月8日（火） 14:00～17:00

14:00-15:00 女性研究者研究交流会 …ポスター発表形式

15:30-17:00 女性研究者ロールモデル講演会

講 師：東京大学大学院情報学環／生産技術研究所教授

場 所：八戸工業高等専門学校 大会議室＋合併教室

対 象：本校および連携機関教職員、高校生以上一般（事前予約制）

参加者：教職員31名、学生13名、外部12名（合計56名）

8. 最終総括シンポジウム

「北東北における女性研究者支援の6年の歩みと未来」

日 時：2022年3月24日（木） 10:00-12:20

場 所：オンライン

発表者：各機関実施責任者

本校より校長出席・発表

内 容：【特別講演】「女性研究者支援の歩みと未来」

広島大学学長特命補佐（研究人材育成担当）

【事業報告】「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」

岩手大学副学長、男女共同参画推進室長

(2) その他の女性研究者研究支援事業

全国ダイバーシティネットワーク東北ブロック会議

日 時：11月1日（月）15:00～17:00

参加者：委員長

(3) 高専機構主催・高専関連男女共同参画事業への参加

1. 高専女子会(2021冬:数学の巻)

日 時：12月11日（土）11:00～12:30

方 法：オンライン

主 催：茨城工業高等専門学校

参加者：2学年3名、1学年2名（女子学生のみ）

2. 高専女子会(春の巻)

日 時：3月21日（月・祝）

方 法：オンライン

主 催：茨城工業高等専門学校

参加者：3学年2名、5学年1名（女子学生のみ）

2. 男女共同参画に関する広報の継続

(1) 令和3年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム実施

企画名：はばたけ SciTech Girls(サイテック・ガールズ) -北東北産業都市八戸発！

青森リケジョの人材交流型育成-

実施期間：2年間（令和2年6月1日～令和4年3月31日）

支援金額：1,494,444円（令和3年度分）

①中学校等出前授業

1) 八戸市立第二中学校出前授業

日 時：6月4日（金）13:30-15:30

会 場：八戸市立第二中学校

内 容：本で知識の世界をのぞいてみよう

講 師：本校教員

対 象：中学生・教員

参加者：全3学年生徒100名+教員5名

2) 八戸市立島守中学校等出前授業

日 時：8月26日（木）

会 場：八戸市立島守中学校

内 容：「3枚羽根でブーメランを作ろう」

講 師：本校教員

対 象：中学生・教員

参加者：全生徒17名+教員5名

3) 八戸工業大学第二高等学校附属中学校出前授業 課題提示編

日 時：2021年12月17日（金）

会 場：八戸工業大学第二高等学校附属中学校-オンライン

内 容：ミニロボットを使ってプログラミング的思考を学ぶ。

講 師：ろぼっと娘（学生グループ）、本校教員（顧問）

対 象：1学年生徒・教員

4) 五戸町立上市川小学校出前授業

日 時：2021年12月21日（火）

会 場：五戸町立上市川小学校

内 容：ミニロボットを使ってプログラミング的思考を学ぶ
講 師：ろぼっと娘（学生グループ）、本校教員（顧問）
対 象：6学年生徒・教員

5) 八戸工業大学第二高等学校附属中学校出前授業 課題解決編・実習編
日 時：2022年1月15日（土）
会 場：八戸工業大学第二高等学校附属中学校-対面
内 容：ミニロボットを使ってプログラミング的思考を学ぶ。
講 師：ろぼっと娘（学生グループ）、本校教員（顧問）
対 象：1学年生徒・教員

②ブックセンターにおけるアカデミック・トーク

1) 2021年度 第1回八戸高専アカデミック・トーク

日 時：6月19日（土） 15:00～17:00

場 所：八戸ブックセンター

講 師：本校教員

補助学生：岩大農学部3年（八戸高専出身）

演 題：リケジョに語る「山」の一般教養

内 容：ナチュラリストを目指す君に、山歩きの文化と環境思想、そしてトレイルと地域づくりの話をしよ
う。

対 象：中学生・高校生・高専生・大学生・一般

参加者：15名

2) 2021年度 第2回八戸高専アカデミック・トーク

日 時：2022年3月13日（日）10:30-

会 場：八戸市ブックセンター

講 師：本校教員

補助学生：八戸工業高等専門学校機械システムデザインコース4年

演 題：リケジョに語る 宇宙の謎

対 象：中学生・高校生・高専生・大学生・一般

参加者：15名（学生8名、一般7名）

③サイテック・フェス

(1)サイテック・フェス in 弘前

日 時：9月26日（日）

会 場：オンラインによる開催（対象：中高生）

対 象：中学生・高校生およびその保護者

参加者：中学生 10名（うち女子生徒 3名）

内 容：

①弘前大学女性研究者によるミニ講演

講師：弘前大学大学院理工学研究科・准教授(理学博士)

②女子学生による弘前大学・八戸高専紹介

③女性研究者との懇談・進学相談

④各種コーナー

内訳

・ろぼっと娘

参加学生：6名

・科学部

演目：科学部といっしょに科学あそびしてみよう

参加学生：6名

・数学クイズ

演目：『割り算の余りで遊ぼう』

参加学生：2名

・機械・医工学コース

演目：腹腔鏡手術シミュレーターを体験しよう

参加学生：2名

・電気情報工学コース

演目：フルカラーLEDで遊んでみよう

参加学生：2名

・マテリアル・バイオ工学コース

演目：紅茶の不思議な色変化

参加学生：1名

・環境都市・建築デザインコース

演目：コンクリートを科学する」実験状況をライブ配信

参加学生：2名

(2)サイテック・フェスin青森

日時：11月3日(水・祝)

会場：リンクステーションホール青森大会議室

対象：中学生・高校生およびその保護者

参加者：中学生37名(うち女子生徒17名)、保護者他 33名

内容：

①ミニ講演：マテリアル・バイオ工学コース教員

演題：「理系ってどんな感じ？」

②学生による八戸高専紹介：M2 1名、C2 2名 計3名

③体験ブース

④女性研究者との懇談・進学相談

体験ブース内訳

・ろぼっと娘

演目：ろぼっと娘とミニロボットを動かそう

参加学生：7名

・科学部

演目：科学部といっしょに科学あそびしてみよう

参加学生：7名

・数学クイズ

演目：割り算の余りで遊ぼう

参加学生：2名

・機械・医工学コース

演目：医療機器に触ってみよう

参加学生：2名

・電気情報工学コース

演目：フルカラーLEDで遊んでみよう

参加学生：2名

・マテリアル・バイオ工学コース

演目：紅茶の不思議な色変化

参加学生：2名

・環境都市・建築デザインコース

演目：釘を使わずにつくる木造建築体験

参加学生：3名

④八戸高専オンライン・オープンキャンパス「先輩と話そう」理系進路選択支援コーナー

対象：中学生・保護者

日時：10月3日（日）

会場：八戸高専

内容：本校学生との交流・情報提供

参加者：中学生215名（うち女子生徒80名）

⑤公開講座（中学生対象のもの）

(1)建築模型をつくる 10月2日（土）13：00～16：00

(2)化学の学校 10月30日（土）、31日（日）

(3)メカnoワールド体験塾Bコース 10月30日（土）9：00～16：10

参加者：中学生62名（うち女子生徒14名）、保護者他14名

⑥まちなか文化祭 理系進路選択支援コーナー

対象：中高生・保護者・一般（小学生含む）

日時：12月18日（土）10:30-15:00（予定）

会場：八戸まちなか広場「マチニワ」

13:40トークショー「活躍する卒業生 理系女子のミチ」

講師：本校OG、本校教員

14:05 ろぼっと娘と電子情報工学部女子学による活動紹介

参加者：中学生 13名（うち女子生徒6名）、保護者他 21名

⑦女性研究者によるロールモデル講演会

(1) 東北大学流体科学研究所 講演

日 時：2022年2月17日（木）13:00-12:00

会 場：オンライン

講 師：東北大学流体科学研究所 女性教員 4名

学際科学フロンティア研究所 男性教員 1名

演 題：東北大学講演会－流体科学ってなんだろう？－

対 象：本校2学年学生、その他の学年の希望する学生、保護者、中学校教員・保護者、
本校教職員

参加者：2学年150名/169名 (M2= 38/43, E2= 39/47, C2= 34/38, Z2= 39/41)

その他：1学年 5名、3学年 10名、4学年 2名、教職員 7名 計 174名

(2) 女性研究者交流会およびロールモデル講演会（前出）

⑧令和3年度全体報告会

日 時：2022年1月10日（月・祝）9:00-17:30

会 場：オンライン

出席者：委員長、総務係員

(2) 「高専だより」での報告

(3) 八戸高専ホームページの更新…6月7日公開

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	キャリア教育・支援センター運営委員会
行動計画	1. 全学的なキャリア構築のための支援プログラムの推進 2. 全学的な進学希望者への効果的な支援

1. 全学的なキャリア構築のための支援プログラムの推進

(1) 全学生対象の各種講演会・説明会の実施

別紙1 参照。

(2) 低学年成績不振者対象学習支援制度（ラーニング・センター）事業の実施

①学習支援メンター制度の取り組みとその結果

別紙2 参照

②基礎学習セミナーの取り組みとその結果

(3) 就職希望者および進学希望者対象の作文指導の補習の実施

担当：作文指導コーディネーター 2-3月に計54時間

2. 全学的な進学希望者への効果的な支援

(1) 進学希望者対象各種講演会・説明会・見学会等の実施

別紙1 参照。

(2) 進学希望者対象各種勉強会等の実施

○3-4学年対象進学希望者向け勉強会

数学、英語

○希望者対象数学模擬試験

(3) 進学希望者向け外部試験団体試験の実施

別紙1 参照。

別紙1

キャリア教育・支援センター 2021年度 行事							各専門コース主催 キャリア教育関係行事						
＜学年別年間実績＞							M	E	C	Z			
第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	専攻科1-2年	希望者対象講座	保護者他	TOEIC (公開)					
4月				4/5 始業式 キャリア説明・学習ガイダンス		4/21 英語実力試験	4/4 入学式後にキャリア説明			4/29 E3 進路ガイダンス			
				4/5 第1回TOEIC IP									
5月			5/19, 26 インターンシップ準備講座 (インターンシップの意義、手続き方法、メール講習)			5/19 数学直前模試		5/23 八戸					
6月	6/21, 28 2年生対象キャリア説明会		6/30 4年生希望者対象受験対策説明会			英語発展セミナー 週1回 夏休み中も 進学者向け数学プリント	6/16 入試懇談会でキャリア教育説明 6/26 保護者懇談会でキャリア教育説明 (オンライン)	6月 仙台	6/4 M3進路説明会 6/8 M4進路説明会1 6/15 M2進路説明会	6/8 E3 就職情報検索システムの活用 6/29 E3 編入学先大学の調査			
7月	7/2 1年生対象キャリア説明会 7/7 1年生希望者対象受験対策説明会	7/21 2年生希望者対象受験対策説明会	7/6, 8 3年生希望者対象受験対策説明会	7/13と7/20 インターンシップ準備講習 マナー講座		6/16 岩手大学説明会			7/16 M4進路説明会2	7/6 E3 エントリーシートの書き方練習	7月 C2, C3, C4 進路ガイダンス		
8月													
9月			9/22 第1回就職活動準備講座 (マイナビ)			9/22-30 全6回 数学発展セミナー	一日体験入学でキャリア教育説明 (オンライン)	9/12 八戸					
10月			10-11月 4学年進学希望者面談			物理プリント 進学希望者対象 受験対策個人指導 週3回		10月 仙台	10/14 E3進路希望調査				
			10/27 第2回 TOEIC IP										
11月								11月 弘前・盛岡	11/24 M4長岡技術大機械創造工学課程説明会	11/17 C4長岡技術大(物質・生物)オンライン説明会	11/19 Z4現場見学(旧N棟跡)	11/19 Z3 進路・履修コース説明会とメンター制度の再周知	
12月		12/16 3年生希望者対象進学対策説明会	12/21 4年生と専攻科1年生 東北大学進学および次世代放射光設備説明会			12/6 希望者対象数学模試 1/24-31 その解答・解説 2-3月 作文指導 14回 +4回	12/4 第4学年保護者懇談会で各コースに、主な大学の進学資料・パンフレットを提供	12月 仙台	12/21 M3E3 (株)ミクニによる企業交流会	12/17 A01北海道大学院環境科学院オンライン説明会			
			12/3 進学予定者による報告会										
1月	1/14 豊橋技術科大学出前講座					1/13 東北大学多元物質科学研究所説明会 1/14 豊橋技術科大学説明会 (教員面談) 1/17 東京工業大学説明会		1月 八戸		1/14 CコースOBによる説明会	1/17 Z4 進路説明会(コース長)		
2月		2/17 東北大学流体研講演会	2/25 第2回就職活動準備講座 (マイナビ)			2-3月 3, 4年生希望者対象科学英語長文対策勉強会6回			2/3 E3 進路説明会 (コース長)				
3月			3/1 企業内容説明会 (併せて3年生へ進路説明会)		3/1 専攻科1年生 企業内容説明会	3/8 希望者対象 ロールモデル講演会		3月 八戸		3/5 E4 就職希望者三者面談	3/2 C4 進路ガイダンス 3/2~就職希望者コース長個人面談 (含三者面談)	2/25 Z4AZ1 青森県県土整備部 公務員セミナー (コース長)	
			3/25 第3回 TOEIC IP		3/25 第3回 TOEIC IP								

R3年度学習支援メンター制度実績

メンター制度利用者・利用状況

学年	前記 時間数	後期 時間数	通年 時間数
1		5	5
1		22	22
1		4	4
1		10	10
1		4	4
1		4	4
1		14	14
1		6	6
2	4	8	12
2	6		6
2		6	6
2		38	38
2		8	8
2		4	4
2	3		3
2		12	12
2		34	34
3	8	18	26
3		10	10
3		20	20
3	6	14	20
3		4	4
4	9		9
4	9	40	49
4		22	22
4	6	12	18
4		4	4
4	4		4

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	教育プログラム委員会
行動計画	1. 自己点検・評価の実施と改善

1. 自己点検・評価の実施と改善

令和3年度は、前回平成30年度の自己点検・評価と同様の「八戸高専自己点検・評価基準」をもとに実施することとした。各委員会、コース、教育科等からそれぞれの観点に基づいて根拠資料を添えて状況、自己評価、改善点を取り纏め、令和3年度自己点検・評価報告書を作成した。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	教育プログラム計画委員会
行動計画	1. 外部評価への対応（継続）

1. 外部評価への対応（継続）

●カリキュラムマップとカリキュラムツリーの実行

「高専教育の質保証」に関連して、教育プログラム委員会により本校の専攻科・本科のコースごとのDP(ディプロマ・ポリシー)、CP(カリキュラム・ポリシー)が設定され、これに基づいて、専攻科・本科の各コースおよび一般教科のカリキュラムマップとカリキュラムツリーを昨年度、作成し直した。

・改正された、カリキュラムマップとカリキュラムツリーをもとに、自己点検評価書やシラバスへの反映を行い、運用の過程において齟齬や改善点等を検討してきた。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	教育プログラム点検・評価委員会
行動計画	1. 授業点検の実施 2. エビデンス点検と抜き取り調査の実施 3. シラバス 及び 自己チェックリストの点検の実施 4. 卒業生・企業等のアンケート

1. 授業点検の実施

以下の日程でオープン授業推進週間期間に教員の授業点検を実施した。

春学期：2021年 4/19(月) ～ 4/23(金)

夏学期：2021年 6/21(月) ～ 6/25(金)

秋学期：2021年 11/8(月) ～ 11/12(金)

春学期、夏学期、及び秋学期のオープン授業推進週間を利用し、合計11名の授業点検を実施した。

2. エビデンス点検と抜き取り調査の実施

令和2年度（2020年度）の成績エビデンスの点検と抜き取り調査を4月より順次開始し、3月末までに完了した。一部の未収集科目については、来年度継続とした。また、令和4年3月で転出される教員の令和3年度の授業エビデンスについては、令和4年3月末までに実施、点検することとした。

3. シラバス 及び 自己チェックリストの点検の実施

令和4年度のシラバスの点検として、新設科目、授業内容が大きく変更がある場合、授業担当者の変更がある場合は、授業担当者が自己チェックリストを提出し、シラバスと合わせて教育プログラム点検・評価委員が点検を実施した。

4. 卒業生・企業等のアンケート調査の分析

学習・教育の成果の把握と改善のため、3年に1度、卒業生と企業等からアンケートを実施しており、令和2年度（2020年度）の3月末までの回答期限として実施した。今年度は、アンケートの集計、分析を行い、教育プログラム委員会にアンケート結果の報告をし、令和3年度の八戸高専自己点検・評価表の根拠資料として提出した。

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	総合科学教育科
行動計画	1. 教育内容の充実 2. 学生指導の連携 3. 大学編入学、大学院入学希望学生の支援 4. 学内共同研究体制の推進

1. 教育内容の充実

定期試験や補充試験等の対策が重視されてきており、補習等で力を入れることにより底辺にいる学生の学習支援が行われた。数学科では、(1)到達度試験前に数学寺子屋を開催し、数学教員が学生の学習支援を実施、(2)キャリア教育・支援センターと共に数学支援セミナーの運営を実施した。英語科では、(1)到達度試験および補充試験前の補習授業、(2)英検対策（全体・個別）、(3)長期休業中に希望者とのグループ学習会（対面・オンライン）、(4)新入生実力テストを受けた遅進者への補習授業、(5)英検の自校会場実施、(6)特活の時間を利用して英語の基礎復習、(7)電気情報工学コースとマテリアル・バイオ工学コースと連携して留学生を対象にはんだ付けワークショップとオリジナルミラーワークショップを開催した。

自主探究関係では、6名の教員がコーディネーターとなり、Activity、ファシリテティング・アワーの企画と実施を行い、オンライン開催となったポスター発表会を教務委員会と協力して行った。

2. 学生指導の連携

朝のショートホームルームは、1～3学年において毎日行われているが、1学年は頻繁に、および2学年は必要に応じて、それぞれの学年の担任がショートホームルーム前にミーティングを行い、学年全体の学生の状況を共有しながら学生指導を行っている。この際、問題を抱えた学生に対する保健室・相談室との連携した学生支援を行い、きめ細かい指導を心がけている。総合科学教育科の会議で学生の情報共有を行い、普段の教育指導に活用している。

3. 大学編入学、大学院入学希望学生の支援

編入学希望者を対象とした英語および数学の勉強会を実施した。大学編入試験問題（英語・数学・化学）および大学院入試問題（数学・化学）の収集と蓄積を行い、大学編入学試験科目（英語・数学・化学）に関する学生からの質問への対応を行った。また、大学編入試験問題（小論文）および大学院入試問題（小論文）の収集と蓄積を行い、図書館交流室での大学・大学院入試小論文ゼミを4月～10月まで週2～3で開催したのに加え、面接練習も実施した。さらに、就職試験のエントリーシート等に関する文章指導も行っている。

大学編入学の口頭試問(英語での受け答え)対策を依頼され、添削指導や発表練習のサポートを行った。

4. 学内共同研究体制の推進

総合科学教育科の教員と専門コースの教員との共同研究体制の推進を行い、化学系学協会東北大会にて4件の学会発表、高分子討論会にて1件の学会発表、日本化学会春季年会にて4件の学会発表を行った。また、ポリイミド関係の雑誌に2報の論文掲載を行った。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	機械・医工学コース
行動計画	1. キャリア支援 2. 教員の研究活動促進 3. 増募対策

1. キャリア支援

就職・進学支援はこれまで通り、三者面談を4年生の12月(全員対象)及び翌年3月(就職希望者対象)に実施した。5年生の4月には進学希望者を対象として実施した。就職はコース長、進学は担任が担当している。会社、学生への連絡、履歴書、エントリーシートのチェックは主にコース長が行なった。面接指導は研究室の指導教員が行ない対応した。本科卒業生42名のうち、就職希望は14名、進学希望は21名だった。専攻科修了生2名はいずれも就職希望だった。本科、専攻科とも就職希望者は全員内定をいただいた。本科からの進学者数は、昨年の15名から20名に増え、進学先は専攻科7名、長岡技科大4名等であった。

2. 教員の研究活動促進

「研究業績の継続した積み上げ」が必須であり、コース会議において周知している。成果が出るまでにはもう少しばかり時間がかかると思われ、今後とも継続した取り組みが必要である。

3. 増募対策

Mコースの過去5年間の入試倍率は1.4～1.9倍で学校平均倍率(1.9～2.2倍)を下回っている。H30年度を除くと、1.4倍に低迷したままである。増募対策として毎年、中学生対象公開講座(2回)、小学生対象公開講座(1回)をコース主催で実施してきたものの、残念ながら増募には結びついていない。その最大の原因は、他コースに比べて女子受験者が少ないことであり、機械コースの入試倍率をアップするためには女子受験生を更に増やす工夫、及び他コースよりも魅力的な内容にすることが必要不可欠である。

こうしたことから、R2年度初めからコース名変更手続きに着手し、R3年4月から、機械・医工学コースに改称した。R2年度後半からは、中学校向けの資料等でコース名変更をアピールしてきたものの、宣伝効果が最も大きい一日体験入学がオンライン開催となったこともあってか、残念ながらR3、R4年度の入試倍率向上には繋がらなかった。R4年度はこの点のアピールに一層取り組んでいきたい。

また、先に述べた中学生対象公開講座も、女子中学生受けをする講座を検討しなければならないと考えている。同様に体験入学でのコース説明及び見学、高専祭コース公開などで女子中学生へのアピール方法を検討したい。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	電気情報工学コース
行動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎学力の向上（継続） 2. 進路支援（継続） 3. 増募対策（継続）

1. 基礎学力の向上（継続）

・第2種電気工事士技能試験の基本対策

4年生を対象とし、放課後の時間に個別に第2種電気工事士の技能試験対策の基礎情報、工具の使い方、ケーブルの裁断などの基本作業について指導した。また、候補問題の配線作業を実際に体験させた。工事作業の経験が少ないため、重要な経験になり、資格取得につながっている。

・留学生向けのはんだ付け講習

3年生を対象とした地域のスペシャリストによる鉛フリーはんだ付け講習会およびものづくりの地域企業の工場見学の実施を計画していたが、コロナ禍のため中止となったことから、留学生向けのはんだ付け講習に変更し、実施した。はんだ付けの実習を通して、ものづくりへの興味関心や学習意欲の向上につながった。

・令和4年度4年次編入予定者の補講の実施

令和4年度の4年次編入予定者のための補講をコロナ禍のため Teams によるオンライン形式で行った。4年次に継続して学ぶ電気回路、電磁気学、電子工学、デジタル回路の4科目について授業を行い、入学時にスムーズに学習できるように支援した。

2. 進路支援（継続）

・三者面談及び就職指導の実施

電気情報工学コースにおいて、3月に4年生の就職希望者を対象に三者面談を実施し、その後、企業選択の支援・アドバイス、及び履歴書、エントリーシートの添削、面接指導までの一貫した就職活動支援を、コースをあげて実施した。その結果、順調に就職希望者全員の内定を得ることができた。

・進路ガイダンスの実施

電気情報工学コース第3学年の特活において、コース長が進路ガイダンスを行った。進学・就職の選択、進学や就職活動のスケジュール、準備すべきこと、最近の進学先・就職先の情報提供を行い、進路について考える機会とした。

3. 増募対策（継続）

・電気情報工学コースのホームページの更新

電気情報工学コースのホームページの情報を更新し、本コースの最新の教育・研究活動の紹介を行った。

・令和3年度「サイテック・フェス」 in 弘前、青森におけるテーマ展示

弘前・青森で開催した女子中高生の理系進路選択支援プログラム「サイテック・フェス」において、電気情報工学コースとしてLEDの電子工作体験ブースを出展した。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	マテリアル・バイオ工学コース
行動計画	1. 進路支援の充実（継続） 2. 専門分野における地域貢献（継続） 3. 増募対策（継続）

1. 進路支援の充実（継続）

1年生に対しては、新入生ガイダンスやマテリアル・バイオ工学序論の講義を通じて、高専5年間在学中の学習内容や卒業後の進路について概要説明を行った。

1年生には、6月、9月の2回にわたって研究室訪問を行い、各教員や研究室所属の学生と学校生活や進路、実験や研究等について懇談した。2、3年生に対しては、7月の特活の時間を利用して、進学や就職状況についてコース長が説明を行った。また、1月には、進学が決まった5年生から進学に向けての勉強方法などを説明してもらった。

4年生に対しては、7月に、コース長とキャリア教育・支援センター副センター長から、就職と進学について今後のスケジュールや準備について説明を行った。12月に保護者懇談会を実施して、本校卒業生の主な進学、就職先に関する説明の他、進路確定までの流れについて説明した。この面談によっておおよその方針が決定された。さらに3月には、就職、進学に関する進路ガイダンスを実施した。これらの準備を経て、3月に就職希望者に対してコース長が個別面談を行い、4月からの応募に向け履歴書などを準備するよう促した。また、同じ2～3月には進学希望者に対して担任との個人面談を行い、受験先を決めた。専攻科生についても4年生と同様の指導を行った。

コースの全学生を対象として、キャリア教育・支援センターと連携して、豊橋技術科学大学等の各大学の説明会を実施し、進学希望者の大学・大学院進学に向けた準備を進めることができた。また、2～3月には、主な対象を3、4年生として、企業で働く卒業生との懇談をオンラインで実施した。

2. 専門分野における地域貢献（継続）

理科好き中学生を育てる活動として、「化学の学校～マテリアル・バイオ工学の世界によろこそ～」を実施した。今年度は、10月に対面での実施ができた。2日間で40名の参加があり、終了後のアンケートからは、「充分満足」90%、「やや満足」10%となり受講者にとって満足の内容になった。

また、「サイテックフェス」や「まちなか文化際」では、コースの女性教員が女子学生向けのコース紹介などを行った。さらに、本コース教員が地元企業などと連携して「三内丸山酵母」を使用したパンを開発・販売し、地域に貢献できた。

3. 増募対策（継続）

本コースでは、理科好きの中学生を育成する活動として「化学の学校」を対面で実施した。お昼休みを利用して、中学生や保護者を対象とした相談会を実施したところ、授業内容や卒業後の進路など幅広く質問が寄せられ、参加者には好評であった。

また、サイテックフェスやまちなか文化祭などの学外イベントで、コースの女性教員が、主に女子生徒対象であるが実験の演示やコース紹介を行った。コースの情報発信のためにホームページの改訂は随時行っており、学生や教員の動向をトピックスとしてまとめている。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	環境都市・建築デザインコース
行動計画	1. コース志望者の増募対策 2. 環境都市・建築デザインコースの教育環境および資格関係の整備・見直し(継続)

1. コース志望者の増募対策

公開講座：本コースのおもしろさを中学生に体験していただくため、3回の講座からなる公開講座シリーズを企画した。これらを通して災害に強く快適な都市・まちづくりを考える講座となっている。テーマは「環境都市・建築デザインコース公開講座シリーズー 環境都市・建築デザイン事始め三講ー」であり、中学生対象に「建築模型をつくる」、「水の浄化実験」、「ペーパーブリッジをつくろう」の3件を企画していた。しかし、コロナ禍のため、「水の浄化実験」、「ペーパーブリッジをつくろう」は残念ながら中止した。「建築模型をつくる」は中学生の参加者20名、満足度は8割が最高評価（とても満足）であった。公開講座の効果は大きいと考えられ、本科推薦入試志願状況 37名、1.9倍となり、過去2年間の志願者数より増加した（21年度1.4倍、20年度1.5倍）。しかし、本科学力入試ではコース第1志望が45名（推薦志望者17含む）、2.3倍であり、内本校第1志望は22名である。学力入試志願者数が伸び悩んでおり、今後の検討課題である。

2. 環境都市・建築デザインコースの教育環境および資格関係の整備・見直し(継続)

(1) R3年度のコース長裁量経費による教育環境整備

以下の物品を購入した。

TS1台修理費、総合科学科教員の卒業研究費、学生実験消耗品経費、コースの図書（雑誌）購入費、4、5年生教室オンライン用スピーカー、R2年度卒業研究製本費、Z棟3階共用掃除機、卒業研究発表会用ノートPCおよび付属品

(2) 寄附物品等の受け入れについて

青森県県土整備部（りんごミュージック）様より、ドローン1台寄贈いただいた。エイト技術様より、ドローン3台寄贈いただいた（タブレットPC付属含む）。これらは今後、測量実習や研究分野に利用予定である。

R4年度に青森銀行様より、本校本コースへ40万円分の物品寄付を受けられることになりました。本校は建築関係図書が少ないことから、建築書を選定し図書館に配置する予定である。

新建築社、新建築データ社様より、新建築データ無償利用の案内があり、申請した結果、コース教員、学生が利用可能となった（「新建築」「新建築住宅特集」を講読可能）。

(3) 本コースの将来構想（R2年度入学生以降）専攻科建築学分野への対応について

専攻科建築学分野への対応について検討した。R4年度、助教で建築系教員を募集することが可能になり、特に専攻科専門科目（建築学分野）を強化する予定である。Zコース専攻科改組について、今後も検討していく予定である。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	教育研究支援センター
行動計画	1. 研究・教育活動に関する技術支援（継続） 2. 東北地区高専および他機関との連携の推進（継続）

1. 研究・教育活動に関する技術支援

本年度は新型コロナ対策のため、遠隔授業用ビデオコンテンツの撮影・編集への対応や各実験室及び「ものづくりセンター」等、校内各所での感染予防対策等の対応を行った。

各学科およびコースからの業務依頼に対して各担当技術職員がそれぞれ支援するとともに対応した。

2. 東北地区高専および他機関との連携の推進

2.1 第23回東北地区国立高等専門学校技術職員研修への参加

この研修会は東北地区の国立高等専門学校に勤務する技術職員の資質向上を目的として、東北地区6高専が持ち回りで毎年開催している。令和3年度は福島高専を主管校として、8月26日（木）、Microsoft Teams による遠隔研修として開催された。研修は福島高専教員による基調講演、技術課題発表などが実施された。本校からは9名の技術職員が参加し1件口頭発表をした。また、新型コロナ感染予防対策について各高専の実情など情報を共有した。

2.2 東北地区技術長会議への参加

この会議は毎年東北地区技術職員研修に合わせて開催されているが、今年度は新型コロナ禍のため、第23回東北技術職員研修のあり方や各校の新型コロナ対策の情報共有を目的とし、8月25日（水）に開催された。

内容は実験実習における新型コロナ感染対策への対応状況から新人技術職員の教育まで幅広く意見交換を行った。

2.3 東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（情報系）への参加

この研修会は、技術職員の職務の遂行に必要な高度で専門的な知識を習得させ、技術職員の資質の向上を図ることを目的として開催されている。

研修は鶴岡高専が主管校として8月18日（水）～20日（金）Microsoft Teams による遠隔研修として開催された。本校からは技術職員1名が参加し1件口頭発表をした。

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	空間構造デザイン系
行動計画	1. 選択科目「空間デザイン」の授業内容検討（継続）

R4年度授業内容およびR5年度授業内容について検討した。

【R4年度授業内容】

私達にとって最もなじみ深い工業製品である自動車は、約250年前に誕生したとされる。当初の自動車の姿は車体にエンジンを積みながら、外見は馬車の姿をしていた。自動車という製品は250年という長い時間をかけて進化をとげ、今私達が知る自動車という様式をまとうようになった。そう考えると、世のなかに存在する工業製品の多くは、技術の進化とともに最新の様式に確立されていくものである。

建築の歴史を見ると、ある時代のある場所（地域）にみられる建築・構造物は、その時代や場所固有の様式 style を有し、それはその時代において産み出された先端の建設技術を根拠に成立している。

本講義は、構造・建築様式の確立において大きな影響を持つ建設技術を見ながら、建設技術の確立に大きな影響を与える固有条件（気候や材料など）を見ながら、様式と技術の関係を紐解いていく。

第1回 橋梁架設 橋梁形式の選定や架設計画におけるヒューマンセンタードデザイン

第2回 橋梁架設 橋の重要度や耐久性向上の対策

第3回 橋梁架設 アセットマネジメント

第4回 建築構造デザイン(地震災害と、耐震性向上の為の形状・デザイン)

第5回 建築構造デザイン(風雪災害と、耐風性・耐雪性向上の為の形状・デザイン)

第6回 東アジア建築（気候と建築の固有性）

第7回 東アジア建築（様式と技術）

第8回 まとめ

【R5年度授業内容について】

これまでは環境都市・建築デザインコースの教員、特に建築系教員が担当することが多かったため、R5年度については、新たに「まちづくりに関するデザイン」、「機械・医工学に関するデザイン」および「環境都市に関するデザイン」を柱にコース横断的に実施することになり、今後も内容を検討することになった。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	ロボティクス系
行動計画	1. 系担当の授業内容等の充実

1. 系担当の授業内容等の充実

全4年生対象の「ロボティクス」（選択必修科目）の授業を、夏学期学修1単位、15時間として実施した。機械・医工学コース教員1名、電気情報工学コース教員1名の合計2名で担当し、ロボティクス分野の基礎として、マイコンボード（Arduino）を用いたプログラミングによる制御技術を中心に、センサ技術・機械機構学などのロボットの設計・製作および運転に関する総合的な授業を行った。座学のみでは動作を理解しにくいため、自作教材とマイコンボード（Arduino）、センサ、サーボモータを用いて実際に動作を確認させる、ソフトウェア「RoboPlus」を用いて歩行ロボットの動作実験を行うなど、多くの授業方法についての工夫を行った。また、授業の改善・高度化のため、（公財）NKSメカトロニクス技術高度化財団の事業を活用して、タブレットから無線でロボットを操作する演示実習を新たに試行し、ITと通信技術について学べるようにした。今年度は新たに、サーボ信号を可視化して理解するテーマを追加し、オシロスコープ波形をデジタルでレポート化する取り組みを行った。また、マイコンで扱える無線通信のモジュールや、LCDなどの追加を行った。一方、地元企業と連携したはんだ付け教育については、コロナ禍のため中止とし、代わりに留学生を対象としたワークショップを実施した。

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	機能創成材料系
行動計画	1. 機能創成材料系における授業内容等の検討

1. 機能創成材料系における授業内容等の検討

平成30年度より第4学年の選択科目のひとつとして、「機能創成材料」がスタートし、機能創成材料系教員のうち、電気情報工学コース教員1名で2時間授業4回、マテリアル・バイオ工学コース教員2名で2時間授業4回を担当して実施している。今年度は昨年度と同様の内容で、電気電子材料のひとつである磁気材料、構造・機能性材料である金属材料および高分子（有機）材料をテーマに授業を実施した。昨年度はコロナ禍のため遠隔授業となり、授業動画の作成と配信、学習管理システム Blackboard による出席確認・授業資料の配布・課題の提出や採点など、新しい形式での授業を展開したが、今年度は対面授業での実施においても、遠隔授業で作成した授業コンテンツを改良した上で活用し、学生の理解度と自学自習の支援になったと思われる。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	エネルギー系
行動計画	1. 新カリキュラムにおける系の授業内容の検討（継続）

1. 新カリキュラムにおける系の授業内容の検討（継続）

令和3年度の第4学年専門共通科目「エネルギー」では、2名ずつ担当する授業担当ローテーションの最後の年であることから、本講義を初めて担当する教員2名が、これまでの内容をベースに、次年度以降を見据えた、担当教員自身の専門性を盛り込んだ新しい内容で実施した。

また、メール会議で、令和4年度から、教員の専門性を活かし教員が面白いと思う内容を学生に伝えることを目的に、所属の全教員が授業を1回ずつ担当するように実施方法を変更することを決定した。また、それに合わせて、評価方法も再検討し、試験中心の評価方法からレポート100%の評価方法へ変更することに決定した。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	ナノテクノロジー系
行動計画	1. ナノテク系開講科目授業内容の充実

第4学年専門共通科目である「ナノテクノロジー」について、令和3年度は2名の教員によって、超分子化学、分子動力学シミュレーションに関する講義を実施した。受講者は、Mコース4名、Eコース4名、Cコース6名の合計14名である。様々な専門コースの学生が受講することに配慮した講義を行うことにより、受講者全員が単位取得できた。次年度は2名の教員が担当し、機能性材料のナノレベルでの状態分析と顕微鏡法と真空に関する講義を行う予定である。

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	環境・バイオテクノロジー系
行動計画	1. 系担当の授業内容についての検討（継続）

1. 系担当の授業内容についての検討

令和3年度の授業は、各教員7名が各1回を担当するオムニバス方式で実施した。履修者は、M11名、E2名、C24名、Z33名の計70名で、全員が単位取得できた。次年度は授業を担当しない教員は外すことし、担当教員のローテーションや授業方法の変更などを引き続き検討することとした。

—令和3年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	数理情報系
行動計画	1. 数理情報の授業内容の検討（文言修正のうえ継続）

1. 数理情報の授業内容の検討（文言修正のうえ継続）

令和3年度の「数理情報」では、前年度と同様の2名の教員が担当した。これまでに引き続き、低学年の数学・物理から高学年の応用数学・応用物理へ、さらに、専門科目へつなぎとなるような授業内容とした。前年度の内容は、低学年で学習した力学、熱力学、電磁気学、波動などの基本的な物理学が現代宇宙論の理解にどのように用いられているかを解説するのが授業の趣旨であったが、Eコースの学生が過半数を占める状況を考慮し、令和3年度の授業では、光に関する物理のウェイトを増やして専門科目を学習する動機が上がるよう改善を試みた。

令和4・5年度は新たな2名の教員が担当となり、2つのテーマの授業内容を検討の上、令和4年度の選択科目開講調およびシラバスの作成を行った。1つ目のテーマは、低学年で習う線形代数を基礎とし、その応用例としてマルコフ連鎖の初歩を解説し、Google PageRankへの応用を体験させることにした。計算には、フリーのCASであるMaximaを使用することとし、ダウンロードの仕方から計算方法まで授業の中で指導する。もう1つのテーマは、低学年で習う微分積分学を基礎とし、その応用例として微分方程式について発展的な問題を解くことにした。演習形式も取り入れて具体的な問題を解くことにより、微分方程式およびその基礎となる数学の知識を確かなものとし、工学の各分野への応用を目指す。

－令和3年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	産業教育系
行動計画	1. キャリアに対する意識づけを目的とした授業の計画と実行 2. 教養教育の充実と基礎的教養の涵養を目的とした読書のためのブックリストの作成

1. キャリアに対する意識づけを目的とした授業の計画と実行

今年度も4年生のコミュニケーション IIA および IIB のなかで、卒業後の進路を念頭に置いた課題を課した。

IIA における「自分が読んだ本」にもとづくプレゼンテーションの課題と、その発展としての IIB での、自己 PR プレゼンテーションの課題では、授業間の連携で学生自身が段階を追ってスキルを向上させるようにしている。とくに後者の自己 PR の課題では、自分の強みを見だし、かつ他者にそれをいかに魅力的に示すかという目標により、キャリアに対する意識づけの役割を果たしている。

1 学年冬学期のものづくり基礎の授業では、今年度も八戸学院大学より講師を招聘して、地域経済について講演を実施した。また、本校教員により「科学者としての生き方」というテーマで、自身の研究のテーマとこれまでの研究者としての来歴を語っていただいた。授業全体としては SDGs を参照しながら、21 世紀をひらく技術者・開発者・研究者といったキャリアを意識させるような各種の項目をもちこんでいる。

2. 教養教育の充実と基礎的教養の涵養を目的とした読書のためのブックリストの作成

コミュニケーション IIA の授業では、社会におけるコミュニケーションという観点から、講義を行っており、また、そこでの話題の中から IIB での課題である論文のテーマを見つけるようにさせている。その段階で、推薦する図書を示して、読むことと書くことの接続をはかった。

また、コミュニケーション I では、課題として芥川賞・直木賞のいずれかの受賞者の作品を読むことになっており、図書館に各賞作家のコーナーを設置することで、学生の読書の習慣づけを行った。また、授業の課題として作成された A5 版手描きの作品紹介 (POP) を図書館内に掲示して、全校的な読書の推進に役立てている。

ものづくり基礎では SDGs をテーマに、各学生が自分で読んだ本について友人に紹介するスタイルの課題を課している。